

# 徳島県立博物館年報

第13号 (平成15年度)

Annual Report of the Tokushima Prefectural Museum  
No. 13 (for the fiscal year of 2003)



# 目次

## I 展覧事業

1. 常設展……………2
2. 企画展……………3
3. 特別陳列……………9
4. 常設展の更新及び活性化に向けての  
取り組み……………10
5. 展示関係出版物……………11

## II 調査研究事業

1. 課題調査……………12
2. 分野別（個別）調査研究……………13
3. 科学研究費補助金による研究……………16
4. 他機関との共同研究……………16
5. 研究成果の公表……………16
6. 研究会・学会等の開催……………19
7. 科学研究費補助金の申請を行うことが  
できる学術研究機関の指定……………20

## III 資料収集保存事業

1. 採集資料……………21
2. 購入資料……………21
3. 寄贈資料……………22
4. 寄託資料……………23
5. 資料の貸し出し……………24
6. 資料の交換……………24
7. 館蔵資料数……………24
8. 資料収集委員会……………24
9. 文献資料の収集……………25
10. 資料の燻蒸……………25

## IV 普及教育事業

1. 普及行事……………26
2. 講師派遣、テレビ・ラジオへの出演等  
……………28
3. 博物館実習生の受け入れ……………29
4. 学校教育との連携……………29
5. 博物館の広報活動……………32
6. 博物館友の会……………33
7. 普及教育関係出版物……………34

## V 管理運営

1. 組織・職員……………35
2. 予算……………36
3. 博物館協議会……………36
4. 各種委員・非常勤講師等の受諾……………37
5. コンピュータシステム……………37
6. 博物館ネットワーク……………38
7. 常陸宮同妃殿下のお成り……………39
8. 視察等博物館関係来訪者……………40

## VI 観覧者統計……………41

## VII 施設の概要

1. 沿革……………44
2. 施設の概要……………44
3. 博物館各室面積……………46

## VIII 例規……………48

# I 展 覧 事 業

博物館での展示は、常設展と企画展から成る。

常設展は、徳島の自然、歴史、文化、自然のしくみ等が概観でき、また、全国的・世界的なかかわりについても理解できるよう、いろいろなテーマを定めて展示している。部分的な展示替えや資料の入れ替えは随時行っているが、基本的な展示の構成は開館以来変わっていない。しかし、開館13周年が過ぎ、常設展の更新（リニューアル）が大きな課題となっているが、財政的には非常にきびしく分割案や構造的なものをあまり変えない更新なども検討中である。いずれにしても常設展の更新はできるだけ早期に実現したいと考えている。

企画展は、専用の企画展示室を使って年3～4回行うことにしている。各分野・分類群の館蔵コレクションの紹介、学芸員の研究成果に基づく地域自然誌や歴史・文化の紹介、全国的あるいは世界的な広がりや資料の展示など様々なテーマをおりませ、数年先までのスケジュールをたてて計画的に取り組んでいる。

しかしながら、予算の削減も行われ、開催回数を減らし、館蔵資料による特別陳列の回数を増やすことも考えなくてはならなくなりつつある。

## 1. 常設展

### (1) 常設展の構成

博物館の常設展示は、総合展示、部門展示およびラプラタ記念ホールの展示の3つから構成されている。

#### ●総合展示

「徳島の自然と歴史」を総合テーマとし、徳島の歴史と文化、現在の自然の姿が概観できるよう、次の7つの大テーマにそって展示が展開されている。

1. 日本列島と四国のおいたち
2. 狩人たちの足跡
3. ムラからクニへ
4. 古代・中世の阿波
5. 藩政のもとで
6. 近代の徳島
7. 徳島の自然とくらし

#### ●部門展示

総合展示とはちがった角度から、分野ごとの個別的、

分類的な展示を行っている。

人文：焼物のうつりかわり／阿波の美術工芸／徳島の歴史・民俗資料 など

自然：いろいろな岩石／鉱物／いろいろな動物／生物の生活と自然のしくみ など

#### ●ラプラタ記念ホールの展示

アルゼンチン共和国のラプラタ大学から寄贈された南アメリカ特有の更新世哺乳動物化石を展示している。

主な展示資料：

- メガテリウム全身骨格（レプリカ）
- パノクツス全身骨格及び甲羅
- マクラウケニア全身骨格（レプリカ）
- トクソドン全身骨格（レプリカ）
- スミロドン全身骨格（レプリカ）
- ヒッピーディオン全身骨格（レプリカ）
- ステゴマストドン頭骨（レプリカ）

### (2) 部門展示の展示替え

部門展示(人文)では、テーマを決めて随時展示替えをしている。平成15年度は次の展示を行った。

#### ●館蔵 阿波の近世絵画

4月1日(火)～6月15日(日)

館蔵の近世絵画を紹介した。

#### ●巡礼の世界

6月17日(火)～8月24日(日)

四国遍路や六十六部廻国巡礼など、近世の阿波に見られた巡礼に関する資料を展示した。

#### ●徳島城と天守閣

8月26日(火)～1月18日(日)

江戸時代初期の徳島城について、絵図や写真等で紹介した。

#### ●楠氏寄贈の美術品

1月20日(火)～2月22日(日)

鳴門の楠育治氏旧蔵品から、日本画や焼物などを展示した。

#### ●復元青銅器

2月24日(火)～4月18日(日)

復元鑄造された青銅器を展示し、つくられた当時の青銅器のすがたを紹介した。あわせて、銅鐸の復元鑄造を例に、当時の鑄造技術についても紹介した。

### (3) トピック展示

博物館では、購入や寄贈・寄託の受け入れなどにより、収蔵資料を充実させている。しかし、それらの多くは、収蔵後すぐに展示する機会が訪れるわけではない。そうした未公開資料の活用を中心として、常設展に変化をつけるため、ラプラタ記念ホール出口に展示ケースを設置し、話題性のあるテーマなどを取り上げた小展示を行うことにした。

今後、年間数回の展示替えを継続していくことにしている。

#### ●地学分野新着資料

9月12日(金)～12月21日(日)

8月末に購入した資料を展示した。

#### ●申(さる)

12月23日(火)～2月1日(日)

平成16年の干支にちなみ、サルに関連する資料を展示した。

#### ●牟岐大島の自然とくらし

2月3日(火)～4月4日(日)

平成14～15年度課題調査の成果を展示した。

## 2. 企画展

平成15度は、次の3回の企画を行った。

### (1) 第1回企画展「歴史を決めた戦い—信長の台頭から家康の覇権まで—」

この企画展は、織田信長が全国統一を押し進めた16世紀後半から、徳川家康が徳川氏の覇権を確立した17世紀前半に至るおよそ50年間に行われた長篠合戦などの4大合戦を紹介した。

●期間 平成15年4月22日(火)～5月25日(日)

●会場 博物館企画展示室

●展示構成と主な展示資料

#### ①戦国乱世の時代

織田信長画像(兵庫県立歴史博物館蔵)

織田信長書状(東京大学史料編纂所蔵)

織田信長朱印状(東京大学史料編纂所蔵)

#### ②長篠合戦

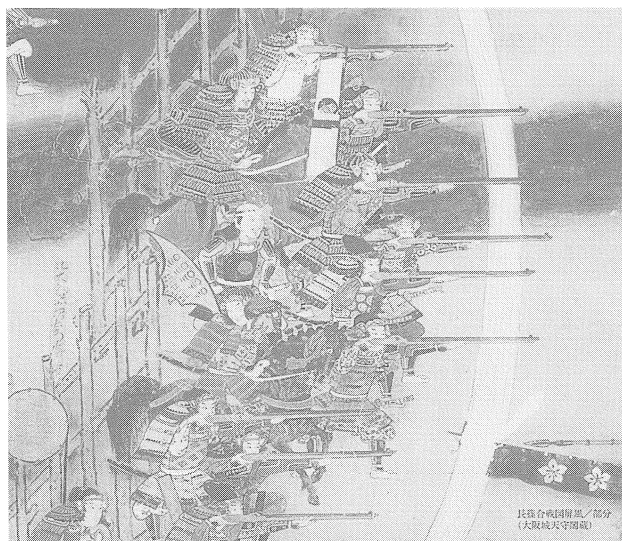
武田勝頼書状(東京大学史料編纂所蔵)

長篠合戦図屏風(大阪城天守閣蔵)

落合左平次道次背旗 複製(国立歴史民俗博物館蔵)

三河国長篠合戦図(当館蔵)

#### ③賤ヶ岳合戦



平成15年度第1回企画展  
**歴史を決めた戦い**  
 —信長の台頭から家康の覇権まで—

開催行事  
 ●記念講演会 5月11日(日)13時30分～15時  
 新題「鉄砲と長篠合戦」  
 講師 西谷基弘氏(日本城郭史学会代表)  
 ●展示解説 第1回 4月27日(日)14時～15時  
 第2回 5月18日(日)14時～15時  
 ※企画展観覧料が必要です

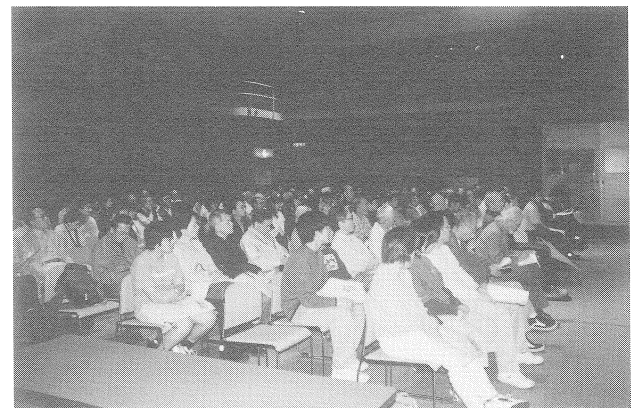
会期 平成15年4月22日(火)～5月25日(日)  
 会場 博物館企画展示室  
 開館時間 9時30分～17時  
 休館日 4/28(月)、5/6(火)、5/12-19(月)  
 観覧料 一般400円 高校・大学生200円  
 小・中学生100円  
 (20名以上の団体は2割引)

文化の森総合公園 徳島県立博物館 〒770-8070徳島市八万町向寺山 TEL(083)668-3636  
<http://www.museum.comet.go.jp/>

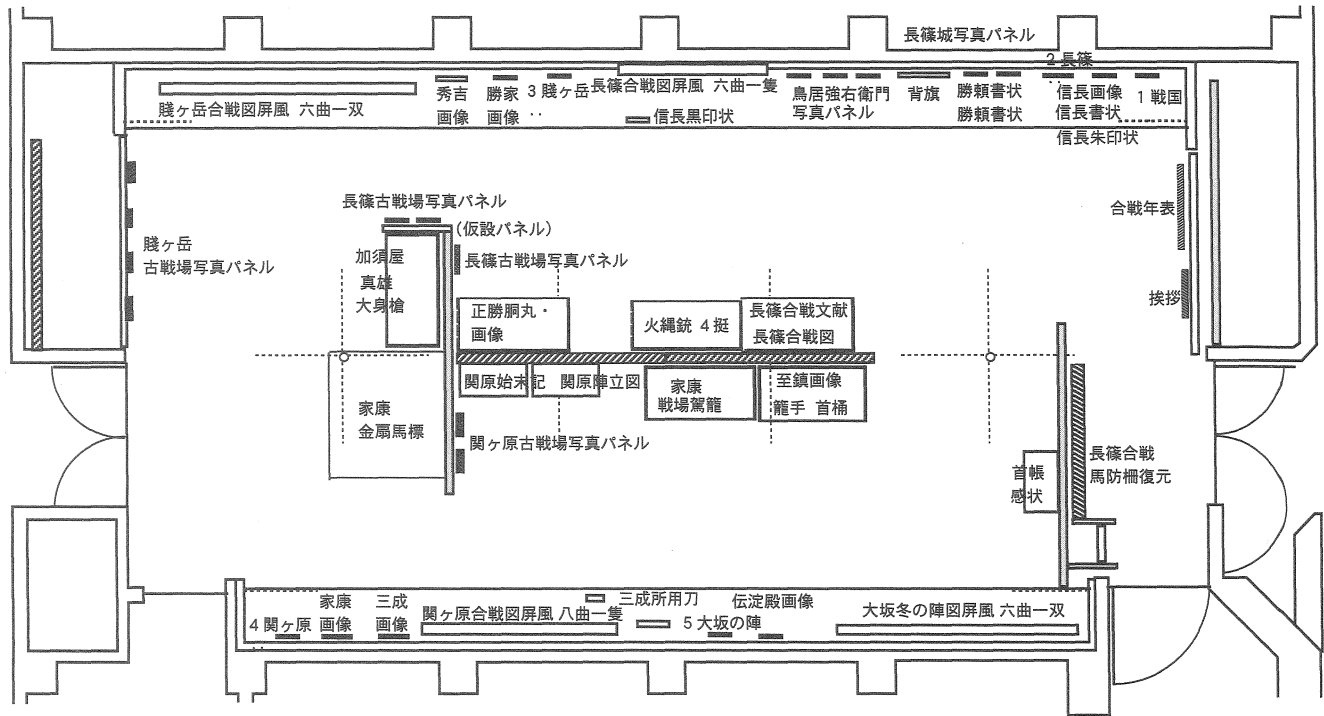
ポスター



展示室風景



記念講演会



豊臣秀吉画像（名古屋市秀吉清正記念館蔵）  
 柴田勝家像（柴田勝次郎氏蔵・福井市立郷土歴史博物館寄託）  
 賤ヶ岳合戦図屏風（岐阜市歴史博物館蔵）  
 加須屋真雄所用大身槍（長浜市立長浜城歴史博物館蔵）

④ 関ヶ原合戦

徳川家康画像（日光東照宮蔵）  
 石田三成画像（長浜市立長浜城歴史博物館蔵）

◎ 関ヶ原合戦図屏風（大阪歴史博物館蔵）

関原御陣立図（国立公文書館蔵）  
 徳川家康所用網代駕籠（日光東照宮蔵）

◎ 石田三成所用刀・名物石田正宗（東京国立博物館蔵）

⑤ 大坂の陣

大坂冬の陣図屏風（東京国立博物館蔵）  
 伝徳川家康所用金扇馬標（久能山東照宮蔵）

◎ 火縄銃（久能山東照宮蔵）

浅野長重所用三十六間筋兜（西ヶ谷恭弘氏蔵）  
 伝豊臣秀頼所用陣中床几（大阪城天守閣蔵）  
 （◎印、重要文化財）

● 展示資料点数 合計103点

● 観覧料 一般400円／高校・大学生200円／小・中学生100円

● 期間中の観覧者数 5,341人

● 企画展関連行事

① 記念講演会

日時：5月11日（日）  
 講師：西ヶ谷恭弘氏（日本城郭史学会代表）

演題：鉄砲と長篠合戦

会場：21世紀館イベントホール

参加者：140人

② 展示解説

第1回：4月27日（日）参加者51名

第2回：5月11日（日）参加者41名

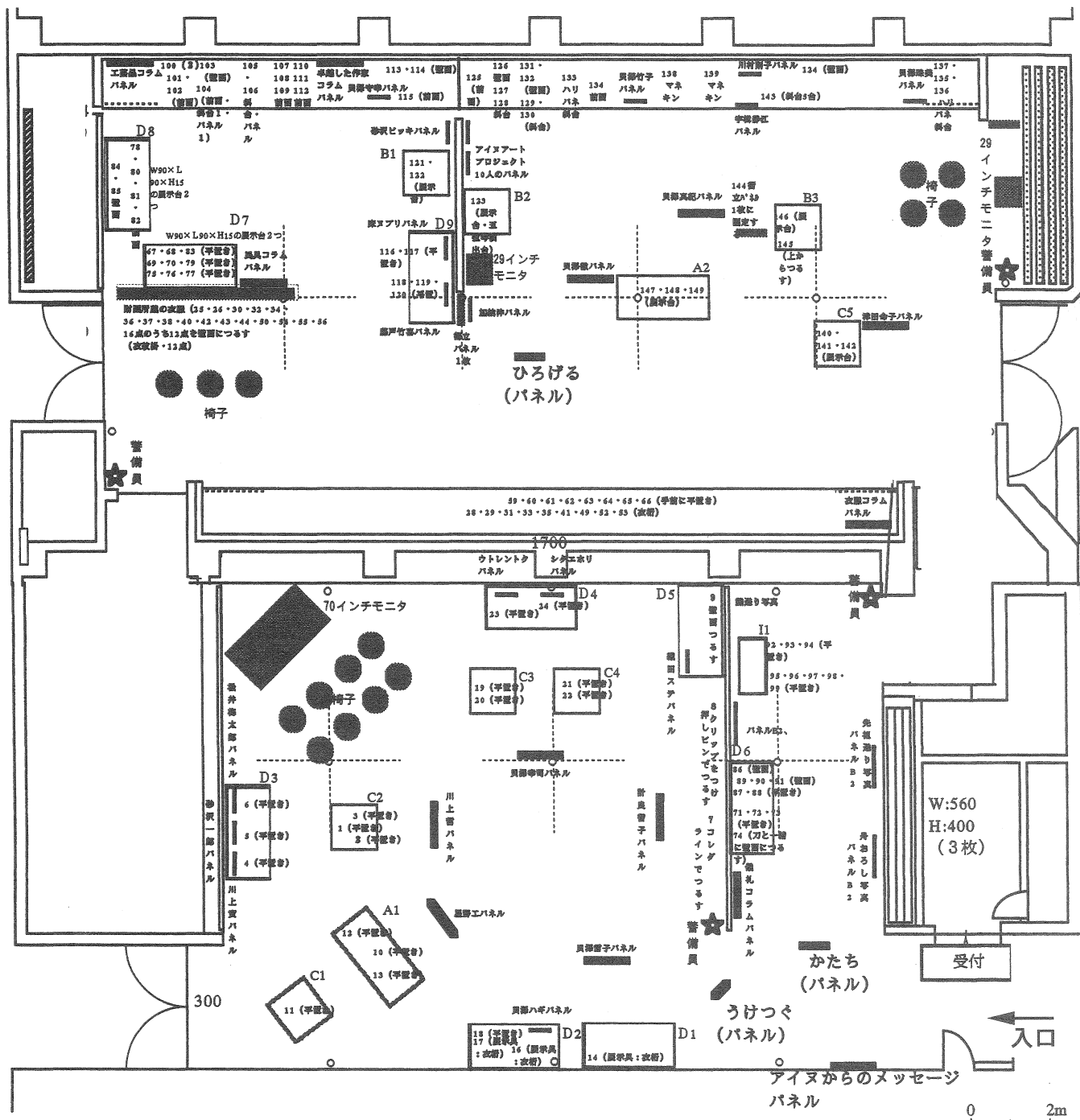
(2) 第2回企画展「平成15年度アイヌ工芸品展 アイヌからのメッセージ—ものづくりと心」

財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構がアイヌ文化の普及を目的に毎年開催している工芸品展を、平成15年度徳島で開催した。

これまで、博物館や美術館などを会場に、アイヌ文化の展示会は多数行われてきたが、大部分はアイヌ文化研究者や博物館・美術館の学芸員により企画構成され、アイヌの人たち自身の参画は少なかった。近年の世界の民族文化の展示では、民族をどう紹介するかを民族自らが決定するという方法が採用されはじめている。本展は、こうした点を踏まえて、「アイヌ自らが現代のアイヌ及び文化を語る」ことをテーマに構成された。現代アイヌ工芸作家の活動の状況やその背景、アイヌの人たちが推薦した工芸品、アイヌ文化継承の現在とこれからの展望などを資料とメッセージによって紹介した。

また、本展は「人権教育のための国連10年」に協賛する催しとして開催された。

● 主催 徳島県立博物館、徳島県立21世紀館、財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構



●後援 国土交通省、文化庁、徳島市、徳島市教育委員会、北海道、北海道教育委員会、社団法人北海道ウタリ協会

●期間 平成15年7月19日(土)～8月31日(日)

●会場 博物館企画展示室・21世紀館多目的活動室

●展示構成

(1) うけつぐ

- ① 川上哲 (木彫)
- ② 計良智子 (織り)
- ③ 星野工 (刺繍・木彫)
- ④ 貝澤雪子 (織り)

⑤ 貝澤幸司 (木彫)

(2) かたち

- ① 儀礼
- ② 衣服
- ③ 民具
- ④ 工芸品

⑤ アイヌの有名作家3人の象徴的な作品

(3) ひろげる

- ① 現在活動している作家のさまざまな作品
- ② 現在の作品と活動状況、これからへの思いについてのメッセージ



オープニングセレモニー



展示室風景

- 展示会資料点数 実物資料 149点
- 観覧資料 無料
- 期間中の観覧者数 10,429人
- 企画展関連行事

①記念講演会

日時：7月21日(月)13:30~15:00

演題：「鳥居龍蔵とアイヌ文化」

講師：国立民族学博物館教授 大塚和義氏

会場：21世紀館イベントホール

入場者：104人

②展示解説

第1回：7月20日(日) 参加者 34人

第2回：8月10日(日) 参加者 35人

③体験学習

・アイヌの楽器ムックリをつくろう

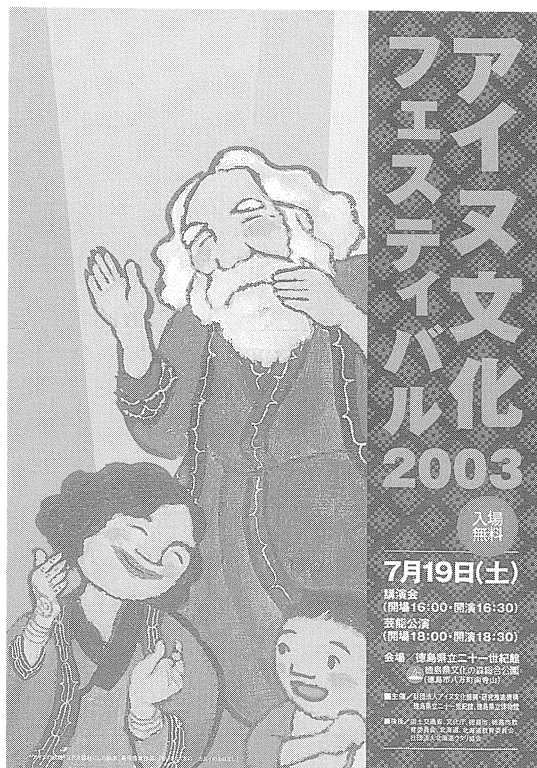
日時：7月27日(日)

10:30~12:00、13:30~15:00

講師：二風谷観光振興組合 貝澤徹氏・貝澤幸司氏

会場：博物館実習室

参加者：99人



ポスター



・アイヌ文様を彫ってコースターをつくろう

日時：8月17日(日)

10:30~12:00、13:30~15:00

講師：財団法人アイヌ民族博物館 野本正博氏ほか

会場：博物館実習室

参加者：67人

④伝統民具の製作実験ーチタラペ(花ござ)を編む

日時：8月13日(水)

10:00~12:00、13:00~16:00

演者：ヤイユカラの森代表 計良智子氏

会場：21世紀館多目的活動室

入場者：302人

⑤アイヌ文化紹介ビデオの上映

第1回：7月19日(土) 入場者 25人

第2回：7月26日(土) 入場者 20人

第3回：8月2日(土) 入場者 8人

第4回：8月12日(火) 入場者 12人

第5回：8月13日(水) 入場者 12人

第6回：8月14日(木) 入場者 8人

第7回：8月15日(金) 入場者 8人

第8回：8月16日(土) 入場者 9人

第9回：8月23日(土) 入場者 20人

第10回：8月30日(土) 入場者 26人

●同時開催行事「アイヌ文化フェスティバル」

主催：財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構、徳島県立21世紀館、徳島県立博物館

日時：7月19日(土)

16:30~18:10(講演会の部)

18:30~20:30(芸能公演の部)

会場：21世紀館、イベントホール及び野外劇場

①講演会

講師：丸山隆司(藤女子大学文学部教授)

演題：知里幸恵の言語

参加者：212名

②芸能公演

演目：

ムックリ演奏・アイヌ古代舞踊(白糠アイヌ文化保存会)

口承文芸(中本ムツ子・千歳アイヌ文化伝承保存会長)

アイヌ民族音楽(OKI&the Far East Band)

輪踊り(フィナーレ)

参加者：727名

(3) 第3回企画展「アンモナイトのすべて」

アンモナイト類は、古生代シルル紀に出現し、恐竜時代の海で大繁栄した後、中生代白亜紀末に絶滅した軟体動物頭足類の一群である。これまでに知られているアンモナイトの化石は1万種を越え、直径数センチのものから2mちかくの大きさになるものまで、また、殻の巻き方でも平面巻きのものから巻きが解けたり塔状に巻いたものまで、実に多種多様である。

本企画展では、こうしたアンモナイトについて、化石の産状と保存状態、体と殻のつくり、殻の巻き方と生息姿勢、アンモナイトの進化などなど、最近の研究成果を踏まえて様々な側面から紹介した。また、平成14年度に購入した世界最大のアンモナイト(レプリカ)もこの企画展の中で披露した。

●期間 平成15年10月17日(金)~11月24日(月)

●会場 博物館企画展示室

●展示構成

①アンモナイト化石の産状

②化石のクリーニング

③化石の保存状態

保存状態のいろいろ/化石の色の違い/

傷跡のある化石

④アンモナイトの体と殻のつくり

変わった巻き方のアンモナイトから世界最大の化石まで、勢ぞろい!!

企画展

アンモナイトのすべて  
2003.10/17(金)~11/24(月)

●記念講演会  
日時：11月9日(日) 午後1時30分~3時  
講師：岡本 隆氏(愛媛大学理学部助教授)  
演題：「アンモナイトを復元する」  
会場：文化の森・21世紀館イベントホール

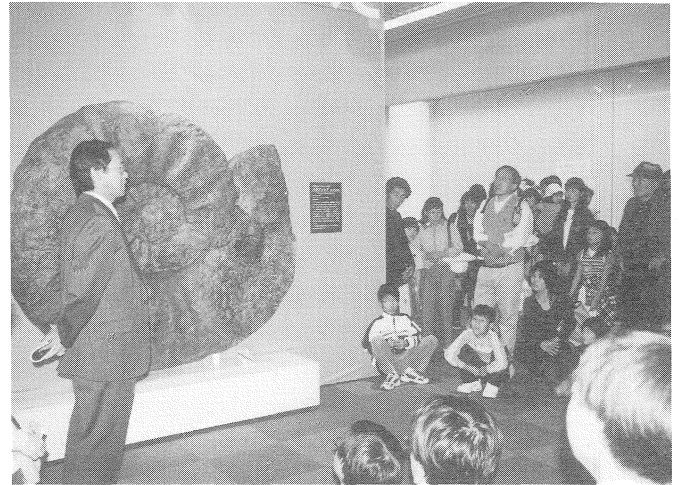
●企画展  
日時：10月26日(日)、11月16日(日)の2回  
両日とも午後2時~3時

徳島県文化の森総合公園  
徳島県立博物館  
〒770-8070 徳島市八万町向山  
TEL 089-898-3636  
http://www.museum.comet.go.jp/

●開館時間：午前9時30分~午後5時  
●会期中の休館日：10月20・27日(月)、11月4日(火)、11月10・17日(月)  
●観覧料：一般200円/高校・大学生100円/小・中学生50円  
(20名以上の団体は2割引。小・中学生及び高校生が土曜日・日曜日・祝日に観覧するときは、教育課程に基づく学習活動として観覧する場合は無料。)



展示室風景



展示解説

アンモナイトの成長と殻の大きさ／殻の内部構造／  
縫合線／表面装飾／殻口の形／顎器

- ⑤ アンモナイトの殻の巻き方  
ふつう巻き（密巻き・緩巻き）／異常巻き
- ⑥ アンモナイトの変異と多型  
アンモナイトの種内変異／ディディモセラスとプラ  
ビトセラス／二型（右巻き・左巻き）／二型（マク  
ロコンクとマイクロコンク）
- ⑦ アンモナイトの生息姿勢
- ⑧ アンモナイトの殻形態と生活様式
- ⑨ アンモナイトのなかま（頭足類）  
オウムガイ類／鞘形類
- ⑩ アンモナイトの進化（時代的変遷）

⑪ 徳島県産のアンモナイト

- 展示資料点数 合計約450点
- 観覧料 一般200円／高校・大学生100円／小・中  
学生50円

● 期間中の観覧者数 9,095人

● 企画展関連行事

① 記念講演会

日時：11月9日（日） 13：30～15：00

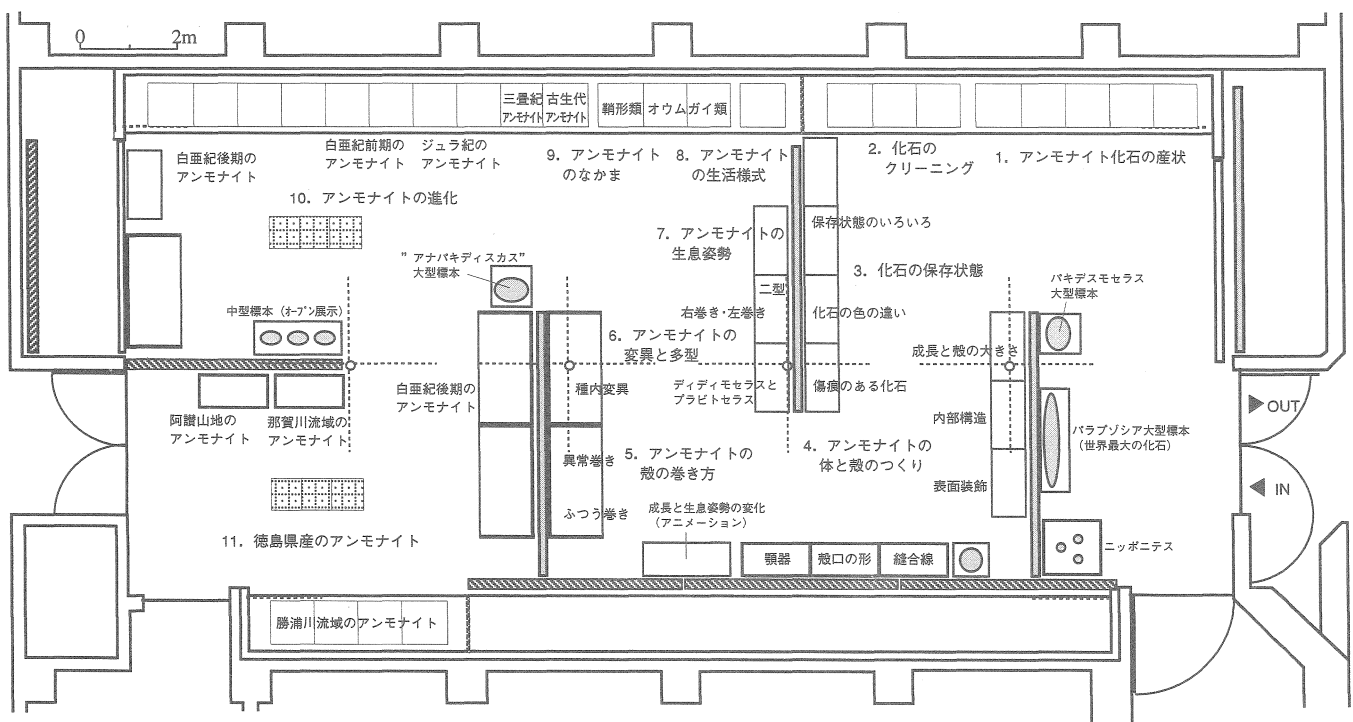
講師：岡本 隆氏（愛媛大学理学部助教授）

演題：「アンモナイトを復元する」

会場：21世紀館イベントホール

参加者：110人

② 企画展解説（第1、2回とも14：00～15：00）



第1回：10月26日(日) 参加者50人  
 第2回：11月16日(日) 参加者45人

### 3. 特別陳列

#### (1) 知里幸恵生誕100年記念巡回展 自由の天地を求めて～知里幸恵『アイヌ神謡集』への道～

知里幸恵は、ユカラやカムイユカラなどのアイヌ文学(口承)を、文字表記して著した初めての人として知られている。優れた業績を残しながら、19歳で夭折した知里幸恵の生誕100年を記念し、アイヌ文化フェスティバルの一環として企画された巡回展を、アイヌ工芸



チラシ



展示室風景

品展の開催にあわせて特別陳列した。幸恵の生涯と業績を遺品や、写真によって紹介した。

- 主催 知里幸恵展実行委員会、財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構、徳島県立21世紀館、徳島県立博物館
- 後援 国土交通省、文化庁、北海道、北海道教育委員会、社団法人北海道ウタリ協会、旭川アイヌ協議会、北海道新聞社、NHK札幌放送局、毎日新聞社、朝日新聞社北海道支社、読売新聞北海道支社
- 期間 平成15年7月19日(土)～7月27日(日)
- 会場 徳島県立近代美術館ギャラリー
- 主な展示資料  
 『アイヌ神謡集』初版本  
 幸恵のノート(対訳部分)  
 金田一京助の幸恵宛葉書
- 観覧料 無料
- 観覧者数 1,317人

#### (2) 日本刀の美—赤羽刀とその他の館藏品—

平成11年に国から県下各機関に譲与された接收刀剣(赤羽刀)17口と、館蔵の刀剣、関連資料をあわせて展示公開した。

- 主催 徳島県立博物館

徳島県立博物館 特別陳列  
 赤羽刀とその他の館藏品

日本刀の美

平成16年  
 1月27日(火)～3月7日(日)

文化の森総合公園  
 徳島県立博物館

会場：博物館1階企画展示室  
 時間：9:30～17:00  
 月曜休館

入場無料

〒770-8070 徳島市八万町向寺山  
 文化の森総合公園内  
 TEL(088)668-3636  
 FAX(088)668-7197  
<http://www.museum.comet.go.jp>

チラシ

●期間 平成16年1月27日(火)～3月7日(日)

●会場 博物館企画展示室

●主な展示資料

刀 (太刀銘) 阿州住氏吉	1口	当館蔵
刀 備州長船祐定作	1口	海南町立博物館蔵
十文字鏝 兼元	1口	
		市場町立歴史民俗資料館
刀 菊紋 丹波守吉道	1口	三好町中央公民館蔵
大小 国広 興津まり氏寄贈	1組	当館蔵
稲葉通龍著『装剣奇賞』	2冊	当館蔵
堀江興成書状	2通	当館蔵

●観覧料 無料

●観覧者数 8,698人

### (3) 2003年度文化の森人権問題啓発展

文化の森5館と徳島県教育委員会(生涯学習課・人権教育課)との共催で、年2回の人権問題啓発展(同和問題啓発展標語ポスター入選作品展と識字学級生の作品展)を行った。

●主催 文化の森5館・徳島県教育委員会

●期間

①2003年度文化の森同和問題啓発展標語ポスター・資料展

平成15年8月2日(土)～8月10日(日)

入場者数 1,414人

②2003年度文化の森人権問題啓発展

平成15年12月2日(火)～7日(日)

入場者数 911人

●会場 2回とも近代美術館ギャラリー・21世紀館多目的活動室・ミニシアター(ビデオ上映)

●入場者数計 2,325人

## 4. 常設展の更新及び活性化に向けての取り組み

### (1) 常設展更新に向けての取り組み

当館では、開館10周年をめぐりに常設展の全面更新を実現したいと考え、開館5年目にあたる平成7年度から館内での検討を行ってきたが、事業化は実現しなかった(年報7号参照)。その後、開館15周年目に当たる17年度にリニューアル・オープンする計画で、事業規模を縮小した基本案見直しを行い、予算積算などを行ったが、厳しい財政状況等もあって、依然として事業化は認められていない。

今後、できるだけ早い時期での常設展更新が実現す

るよう、その方途を探っている。

また、最近開館した博物館や展示のリニューアルを行った館に対する調査も継続してきており、15年度には次の調査を行った。

北九州市立自然史・歴史博物館、新潟市歴史博物館：新設館の展示状況の調査

### (2) 常設展の活性化に向けての取り組み

常設展の全面更新が困難な状況にあることから、現行常設展の手直しなどを進め、より利用しやすく、また、より変化の見えるかたちへと変えていくよう取り組みを始めた。

15年度は、次のようなことを行った。

#### ①部門展示(人文)の計画的運営と広報の強化

これまで、部門展示(人文)の展示替えについては、長期的なスケジュールを立てていなかったが、半年程度の計画をまとめるとともに、チラシを配布して広報に努めることにした。

#### ②収蔵資料公開の促進

「常設展」の項に記したトピック展示コーナーを新設したほか、新収蔵資料を総合展示に反映するよう努めた。

部門展示(人文)のご案内 2003年6月～2004年3月

## 博物館は百面相?

常設展は博物館の「顔」。でも、いつも同じ表情ではありません。常設展の部門展示(人文)では、年間を通じていろいろなテーマで展示を行っています。博物館の新しい表情を見ませんか?

<p style="text-align: center;"><b>巡礼の世界</b></p> <p style="text-align: center;">6月17日(火)～8月24日(日)</p> <p>四国遍路など、巡礼についての資料を展示します。</p>	<p style="text-align: center;"><b>徳島城と天守閣</b></p> <p style="text-align: center;">8月26日(火)～1月12日(月)</p> <p>江戸時代はじめの徳島城を、絵図、写真、パネルで紹介いたします。</p>
<p style="text-align: center;"><b>楠氏寄贈の美術品</b></p> <p style="text-align: center;">1月14日(水)～2月22日(日)</p> <p>鳴門の楠清治氏旧蔵品から、日本画、焼き物などを展示。</p>	<p style="text-align: center;"><b>復元青銅器</b></p> <p style="text-align: center;">2月24日(火)～4月18日(日)</p> <p>復元した銅鐔、銅剣などを展示し、復元のしかたについても紹介します。</p>

**鳴門の塩業資料**

通 年

国指定民俗文化財の製塩道具など。

**豊田コレクションの庸八焼**

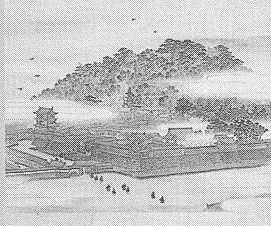
通 年

徳島の城下で作られた焼き物。

**近世の焼き物**

通 年

江戸時代の徳島で作られた焼き物の数々。



徳島城図

**徳島県立博物館**

徳島市八万町向山 文化の森総合公園  
TEL 088-688-3636  
FAX 088-688-7197

場 所/博物館2階 常設展示室内  
時 間/午前9時30分～午後5時(休館日)  
月曜休館(祝日・振替休日の場合はその翌日)  
観覧料/ 祝日・無料  
平日一般200円、高校生100円、小中学生50円  
(小中学生は、85歳以上、身体障害者には、割引料の場合があります)  
※展示テーマ、期間が変わる場合があります

部門展示の案内用チラシ

③総合展示の大テーマサインの新設

総合展示は、7つの大テーマで構成されており、天井からコーナー区分のサインを吊してあるが、目に入らない。そこで、新しく小型のサインを製作し、床面に設置した。

④県内博物館情報の提示

観覧者がさらに知識や経験を深めるための参考になるよう、いくつかのコーナーで関連する県内の博物館に関する情報を提示するようにした。また、徳島県博物館協議会発行の「徳島博物館マップ」を展示室内に掲示した。

⑤“びっくり箱”を使った展示室での解説の試み

展示室等において、不定期に実演や資料解説を行うために、実演用ワゴン（“びっくり箱”）を製作した。ワゴンは高さ約100×幅約100×奥行き約60cmで、実演（解説）者が立つ裏側の扉が観音開きになり、大小6個の引き出しが備わっている。

試験的に3月20日（土）・21日（日）の2日間、2階常設展示室ロビーにおいて次のような内容で1回約1時間、5回の実演・解説を行った。

- ・復元銅鐸を鳴らしてみよう
- ・貝製の腕輪をつけてみよう
- ・古代の赤い顔料 —辰砂とベンガラ—

各回とも5、6組の家族連れが用意した復元品などの資料に触れ、解説に耳を傾けた。合計で約80名ほどの参加があり、おおむね良好な反応が得られた。今後も場所や担当者、テーマを変え、さまざまな実演や解説を行い、展示活性化の一助としたい。

⑥その他

見やすいラベルの作成に向けての検討、常設展関係出版物の刊行促進なども課題であり、取り組みを進めている。

## 5. 展示関係出版物

### ■企画展図録・解説書

●第1回企画展図録「歴史を決めた戦い—信長の台頭から家康の覇権まで」

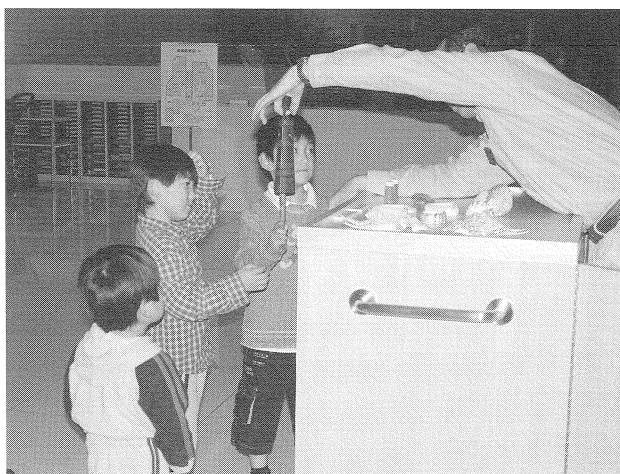
2003年3月31日発行、A4判75ページ（52カラーページ）、700部+友の会増刷分300部

●第2回企画展図録「アイヌからのメッセージ—ものづくりと心—」

2003年7月19日発行、A4判168ページ（118カラーページ）、友の会増刷分300部

●第3回企画展解説書「アンモナイトのすべて」

2003年10月15日発行、A4判48ページ（カラー）、700部+友の会増刷分700部



“びっくり箱”での解説

## Ⅱ 調査研究事業

調査研究は、博物館における諸活動の根底をなすものである。それは、質の高い調査研究に裏付けられてこそ、最新の情報を盛り込んだ展示や質の高いコレクションの収集、内容豊かな普及活動が可能となるからである。

当館の調査研究事業には、複数の学芸員グループで、必要に応じては館外の研究者も含めて、特定のテーマを定めて年度単位で集中的に取り組む課題調査、各学芸員がそれぞれの分野や専門とするテーマに基づいて日常的に取り組んでいる個別調査研究、翌々年以降に予定されている企画展のための事前資料調査などがある。

現在、館長を含む15名の学芸スタッフがこの業務に携わっている。

### 1. 課題調査

平成15年度は、次の3つの課題調査を行った。

#### (1) 牟岐大島・出羽島の自然と暮らし

大島及び隣接する津島は海部郡牟岐町から約4kmの洋上にある無人島である。これらの島は、離島であることなどの関係からいずれも人工林をまったく見ないため県南の植生を知る上で貴重な存在となっている。また、出羽島は県内でも数少ない人が住む離島であり、早くから漁業を中心として開けた土地である。島内は宅地・耕地が多いものの、南面の大池には世界的に珍しいシラタマモが自生しているなど県内でも特筆に値する地域と言える。自然環境としては、牟岐町の多くは暖温帯植物区に入るものの、津島・大島・出羽島などではアコウをはじめとした亜熱帯植物の混成が目立ち、林床には様々な腐生植物が見られるなど特異な植物が分布していることも知られている。これらのことから、三島を中心とした牟岐町の周辺の島々を調査することで、県南部を特徴づける自然及び人文的データが多数得られると期待される。しかし、津島・牟岐大島・出羽島を含むその周辺の島々の自然や人文に関する調査は古いものしかなく、最近の現状はまったく不明と言える。そこで、徳島県立博物館として、この津島・牟岐大島・出羽島及びその周辺の島々につ

いて、2年間にわたりさまざまな分野での総合調査を行うこととした。

#### ●調査メンバー

博物館学芸員：大原賢二(昆虫)、小川 誠(植物)・茨木 靖(植物：調査担当者)、中尾賢一・辻野泰之(地学)、高島芳弘(考古)、長谷川賢二(歴史)、魚島純一(保存科学・考古)、磯本宏紀(民俗)

館外調査員：木内和美(植物研究者・牟岐町文化財保護審議会委員)、佐治まゆみ(植物研究者)、成田愛治(海南町職員)、吉田一夫(市場町職員)

#### ●調査の概要および結果

15年度は本調査の2年目として、次のような分担で島の自然と暮らしを明らかにすることを目標に調査を行った。15年度の調査では14年度の調査でできなかった点を掘り下げ、特に植物では、シラヒゲムヨウラン、コウシュウウヤク、ネコノシタなどいくつかの貴重な植物が見いだされるなどの成果があった。

大原賢二(分担：昆虫類の幼虫・成虫調査)

小川 誠・茨木 靖(分担：植物相調査)

辻野泰之(分担：地質について)

高島芳弘・魚島純一(分担：考古学的調査)

長谷川賢二(分担：歴史的位置づけについて)

磯本宏紀(分担：民俗風習について)

#### (2) 徳島県の半翅類調査

徳島県の昆虫相解明のために、外部の研究者にも参加してもらいながら、平成12年度からの2年計画でスタートさせたが、エゾゼミ類の調査を追加することにして15年度も継続した。夏季はセミ科のエゾゼミ類の追加調査を重点的に行った。また水生のグループ(異翅目の一部)についても、より詳細な調査が必要であると考え、秋から冬季の越冬中の調査を重点的に行うことにした。特に、9月初旬に鳴門市で、四国で初めての記録となるトガリアメンボが発見されたために、初冬までこの種の分布調査を行った。

結果的にはエゾゼミの複数個体が得られ、トガリアメンボの分布調査も徳島県および香川県の広い範囲で生息が確認できた。

#### ●調査メンバー

博物館学芸員：大原賢二(動物)

館外調査者：林 正美（埼玉大学教育学部）

### ●15年度調査の成果

#### ①徳島県のエゾゼミ

7月25～29日に夏季のエゾゼミ類を中心とした調査を行った。26日に神山町から木沢村のスーパー林道周辺で調査。27日、28日に三好郡池田町雲辺寺山から、三好郡東祖谷山村腕山周辺、29日に脇町大滝山での調査を行った。雲辺寺山、大滝山でエゾゼミを採集・捕獲できた。

#### ②徳島県の水生半翅類

・10月17～19日、16年3月22～24日の2回、林氏と共に調査を行った。9月以降は徳島市内の城山下の池、渋野町、鳴門市周辺のため池、阿南市新野町などのため池を中心にトガリアメンボの生息調査を行った。10月18日は愛媛県新居浜市、川之江市、香川県観音寺市周辺までトガリアメンボの分布調査を行った。

・9月以降はトガリアメンボが発見されたため、大原が中心になって徳島県及び香川県の多くのため池を調査し、本種の分布調査を中心に行った。愛媛県までは分布を拡大していないようであったが、我々の調査では徳島県では三好郡三野町、香川県では高松市から観音寺市の間くらいまで、夏以降に一気に分布を拡大したことが確認された。

#### (3) 潜水漁業の現在とその環境利用

本課題調査は、平成15・16年度の2カ年計画で進行中である。

潜水漁は、徳島県においては県南地域で行われる採貝・採藻漁法の1つである。これに関連する歴史的、民俗学的研究の蓄積は多い。徳島県域を中心にしてみた場合、旧阿部村の海女についての瀬川清子の昭和初期の記述、『阿波のいただきさん』として世に出された岡田一郎氏の研究。1980年代に行われた歳森茂氏による一連の漁具研究などがある。

しかし、それ以降、最近の事例報告はあまりみない。民俗事象全般に変化が予想されるし、他地域では近年しばしば論じられる環境論からの報告はいまだ十分でないといってもよいだろう。加えて、近代における出稼ぎや移住など漁民相互の動きの中で、徳島県域は十分に位置づけられていない。

したがって、漁具、漁法や漁村における民俗に顕れた潜水漁従事者の漁場空間への認識方法、資源管理方法、空間認識について、民俗学的アプローチにより調査を行った。この調査により、潜水漁に関する労働と環境利用の実態を明らかにすることを目的とした。

#### ●調査メンバー

博物館学芸員：磯本宏紀（民俗）

館外調査員：小島孝夫（成城大学文芸学部）、高橋健一（日本民俗学会会員）

#### ●調査日程と調査地

5月17日～18日：伊島・出羽島

8月2日～6日：出羽島

9月13日～15日：伊島

11月1日～2日：伊島

#### ●調査概要および結果

調査地を阿南市伊島、牟岐町出羽島として、次のような調査分担で調査を行い、調査地における環境利用の概要が明らかになった。

小島孝夫：離島における農の役割

高橋健一：交通・交易と生業

磯本宏紀：潜水漁における漁場利用

## 2. 分野別（個別）調査研究

大原賢二（動物・昆虫）

#### ①日本産ハナアブ科の分類学的研究

#### ②徳島県のヒラズゲンセイの分布調査

徳島県のヒラズゲンセイの分布調査を行った。15年度は新聞記事などによる分布記録として、穴吹町での発見があり、さらに一般の方からの電話連絡で、美馬郡脇町、板野郡上板町などでの発生も確認できた。徳島市内でも数カ所の発生地を調査できたが、インターネットでの県産標本の販売などが行われているとの苦情が寄せられたため、報道機関への情報提供などは行わなかった。これまでに得られた産地情報から、県内のほとんどの市町村で発見されており、広く分布していることが伺われた。現時点で発見されていない標高の高い町村に分布しているかどうか今後の調査目標となる。

#### ③アサギマダラの移動調査

アサギマダラの移動について、15年度も継続してマーキング等の調査を行った。マーキング調査への協力者も増えつつあり、15年度の秋の移動記録はきわめて多数得られ、特に徳島県から鹿児島県の薩摩半島南端、南西諸島の喜界島、沖縄県南大東島への長距離移動が確認された。

#### ④マレーゼトラップによる県内の昆虫相の調査

名古屋市の名城大学農学部昆虫学教室の山岸健三氏と共同で、15年度は、麻植郡川島町と阿波郡市場町に属する吉野川の中洲である善入寺島に2カ所（秋以降に1カ所追加）のマレーゼトラップを設置し、2～4週間間隔で回収を行って、その付近の昆虫相の調査を行った。

すでに約2万頭の標本が作成、科までの同定後、当館に納められており、今後の調査研究用資料として保管されている。

#### 佐藤陽一（動物・脊椎動物）

##### ①県内の淡水魚類相調査

県下の淡水魚類相調査の一環として、鴨島町三谷川などで調査を行った。

##### ②勝浦川に生息する魚類の生息環境に関する研究

調査データ（1999～2002年）に基づき、河床に沈積するFPOM（有機性微細粒子）が魚類に及ぼす影響を評価した。徳島大学工学部建設工学科との共同研究。

##### ③徳島市国府町以西用水に生息する魚類の生息環境に関する研究。

徳島大学大学院工学研究科エコシステム専攻との共同研究。

##### ④メダカとカダヤシの種間関係に関する研究。

徳島大学大学院工学研究科エコシステム専攻との共同研究。

##### ⑤那賀川における回遊型カジカの保全に関する研究。

徳島大学工学部建設工学科との共同研究。

#### 田辺 力（動物・無脊椎動物）

##### ①県産無脊椎動物相の調査

鳴門市にて海岸無脊椎動物相の調査を行った。

##### ②ヤスデ類の進化生物学的及び分泌液成分に関する研究

ババヤスデ属の属の交尾器形態および生殖隔離機構の進化要因についての研究を進めた。

##### ③ヒメヨロイヤスデの防御用分泌液の化学組成に関する研究を行い、その結果を報告した（桑原保正氏らと共同）。

#### 小川 誠（植物）

##### ①美郷村の植物相調査

平成15年度阿波学会の調査の一環として、美郷村の植物相調査を行った（木下 覚、木村晴夫氏らと共同）。

##### ②ヨモギ属の分布調査

日本産ヨモギ属の分化と分布の現状を探るため、大分県での分布調査を行った。

##### ③絶滅危惧種の保全に関する調査研究

絶滅危惧種のフジバカマについて、園瀬川の分布を調査し、工事により破壊された生育地の復元方法の検討を行った。

##### ④溜池の植物相調査

阿南市および徳島市など県内の溜池の植物相を調査した。

#### 茨木 靖（植物）

##### ①県産植物相の調査

海部郡牟岐町大島および麻植郡美郷村奥野々山を中心に、徳島県の植物相の調査を行い、その成果を報告した（木内和美氏らと共同）。

##### ②ススキ属の比較研究

国内外の博物館、研究機関より世界各地のススキ属の標本を借用し、その異同、分布などに関する調査を行い、その成果を報告した（大橋広好氏と共同）。

#### 両角芳郎（地学）

##### ①日本の上部白亜系の化石層序に関する研究

阿讃山地の和泉層群から産出するノストセラス科アンモナイトの分類学的検討を行った。また、平成15年度に開催した企画展に関連し、殻口の形状や傷痕の修復痕、種内変異や二型などが観察できるアンモナイト標本の調査を行った。

##### ②勝浦川流域下部白亜系産化石に関する研究

羽ノ浦層から産出する頭足類化石の分類学的検討を行った。

#### 中尾賢一（地学）

##### ①浅海成鮮新統～更新統の堆積環境と貝化石相の調査

高知県と長崎県で堆積構造の観察と貝化石の採集を行った。高知県では、浮遊性巻貝化石の分類学的検討を行った（一部を三本健二氏と共同）。

##### ②国会議事堂に使われた内装用石灰岩の調査

国会議事堂の石材調査（東京都永田町）および露頭調査（阿南市および木沢村）、聞き取り調査（阿南市および岐阜県大垣市）を行った（石田啓祐氏らと共同）。

##### ③鳴門海峡海底の貝化石の調査

鳴門海峡の海底から底曳網にかかって得られる貝化石について、群集組成を調べ、年代測定を行った（鎌滝孝信氏らと共同）。

#### 辻野泰之（地学）

##### ①上部白亜系の軟体動物化石に関する研究

バキュリテス類（異常巻きアンモナイト）の分類の検討を行った。特に阿讃山脈の和泉層群と北海道の蝦夷累層群から産出する個体について比較調査を行った。

##### ②香川県さぬき市兼割に分布する和泉層群の岩相と動物化石についての調査

当館にすでに所蔵されている同地域産動物化石を含めて、検討を行った。

#### 高島芳弘（考古）

##### ①石井町前山古墳群の報告書作成に向けた調査

発掘調査時に作成した図面類の整理と20m前後の小さな前方後円墳の類例を調査した。

##### ②ヒスイを使った古代のアクセサリーの所在調査



糸魚川周辺のスズ原石や北陸方面から出土する大珠、勾玉などの所在調査を行った。

### ③企画展「縄文の美」資料調査

17年度開催予定の企画展の準備の一環として、青森、岩手、宮城を中心に亀ヶ岡文化関連の資料の所在調査を行った。

### ④牟岐大島採集の陶磁器類の調査

主に幕末から明治にかけての陶磁器類の産地や製作技法について検討した。

### 魚島純一（保存科学・考古）

#### ①県内出土銅鐸の調査

特に昨年度課題調査を実施した星河内美田銅鐸の補足調査として、辰馬考古資料館が所蔵する星河内美田銅鐸破片を調査し、当館が所蔵する破片と接合する同一個体の破片が含まれることを確認した。

#### ②臭化メチル燻蒸に替わる燻蒸法の研究

これまで続けてきた窒素を使った殺虫処理法の実用化のため、小型の窒素発生装置を使った中型資料までの殺虫処理の実験を行い、実用化のめどを得ることができた。今後はさらに大型資料への応用を検討する。

#### ③展示室内等における害虫の生息調査

これまで使用してきた燻蒸ガスの全廃を控えて、展示室内等での害虫の生息調査を実施し、どの時期にどの場所でどのような害虫が捕獲できるかを調査した。今後も継続して行い、害虫被害の防除に役立つ予定である。

#### ④県産スギと珪藻土を用いた調湿ボード開発への協力

県内企業等が開発中の調湿ボードについて、実際に博物館施設においてどのような利用が可能であるかについて助言を行った。また燻蒸が調湿効果に及ぼす影響を調べるための調査を共同で行った。

#### ⑤外部依頼による調査、燻蒸処理等

- ・香川県埋蔵文化財調査センター、高知県埋蔵文化財センター、高松市教育委員会などの依頼を受け、出土文化財の蛍光X線分析による材質調査を行った。
- ・徳島大学埋蔵文化財調査室などの依頼を受け、出土文化財等の赤外線TVカメラでの調査を行った。
- ・県内市町村教育委員会、博物館施設などの文化財保管施設からの依頼を受け、古文書、民具などの燻蒸処理を実施した。

### 山川浩實（歴史）

#### ①徳島城の石垣の築造年代に関する調査

徳島城の石垣について、野面積み・打ち込み接ぎ・切り込み接ぎの3種類の石積み技法に分けて調査を行い、山城と平城との石垣について、3期にわたる

おおまかな築造年代を確認した。

#### ②徳島城の石垣の刻印に関する調査

徳島城の正門にあたる大手門を中心に存在する文字や図形の刻印について、積み石の位置確認や刻印の分類を行った。さらに徳島城の刻印と、名古屋城・大坂城の刻印との比較検討を行った。

#### ③名古屋城の石垣工事に関する調査

徳川幕府から名古屋城の石垣工事を命じられた蜂須賀家の工事箇所について、本丸・西の丸・御深井丸の3箇所を確認した。併せて、石垣工事に伴う蜂須賀家の刻紋調査を行った。

### 長谷川賢二（歴史）

#### ①熊野信仰の伝播に関する調査

熊野本宮関係の御師文書を通覧し、中世を通じた熊野信仰の地方伝播の様相把握を進めた。併せて、これまで未検討だった那賀川流域における熊野信仰についての史料調査に取り組み始めた。

#### ②修験道当山派成立前史の再検討

神山町勧善寺所蔵大般若経巻二〇八奥書の記載を手がかりに、修験道当山派の成立前史の見直しを試みた。今後も関連史料の調査を継続する。

#### ③戦国軍記の研究

阿波関係戦国軍記について、天正の法華騒動を中心とする三好長治に関する記述を取り上げ、そこに投影された価値観と背景を検討した。

#### ④四国山地における歴史意識の展開に関する研究

剣山周辺の南朝系文書や、祖谷山における平家伝説を手がかりに、山間地域の歴史意識の様相を検討した。

### 庄武憲子（民俗）

#### ①アイヌ文化と徳島県の関わりについての資料調査

アイヌ工芸品展の開催にあたって、アイヌ文化と徳島県の関わりを示す資料の調査を行った。

#### ②神山町の暮らしについての調査

神山町史編纂にあたって、専門委員として神山町での暮らしぶりについて調査を行った。

#### ③徳島県内の河童伝承についての考察

徳島県内に伝わる河童伝承について聞き取り調査によって得た情報と文献に掲載されている情報をまとめ、分布図を作成。情報から読みとれる特徴についての考察をした。

#### ④五月節供の猿轍についての情報収集

県内の五月節供に見られる猿轍の風習についての情報収集を行った。

### 磯本宏紀（民俗）

#### ①潜水漁及び漁村構造に関する研究

県南部の漁村を中心に展開される潜水漁について

て、その環境利用、労働慣行、生業の複合性に関する調査を継続中である。漁村における生業選択の論理を探り、近代における移住や出稼ぎから生じた労働慣行について検討した。

#### ②民俗誌の記述に関する研究

主に昭和初期の民俗学確立期に書かれた民俗誌、民俗調査報告等を調査し、民俗の変化、民俗記述の変化を検討するための材料として整理した。また、時代性と記述法の変遷についても考察を進めている。

#### ③ヨツゴに関する調査

美郷村域において、傾斜地にある常畑で使用される鋤の一種であるヨツゴと、それをを用いた労働について調査した。

#### ④唐竿の地域差に関する調査

東祖谷山村、木頭村の各教育委員会所蔵資料を中心として、唐竿の形態、材質、使用形態などの特質について調査した。また、これらのデータをもとに地域差についての検討も行った。なおこれらのデータは、県内を含む四国唐竿調査の一部をなすものである。

#### 大橋俊雄（美術工芸）

##### ①塗師藤重の研究

藤重の作品を把握するため、各所蔵者、所蔵館の元で調査を行った。

##### ②県下の赤羽刀等の研究

特別陳列の準備と平行して、県下赤羽刀について調査を行い、あわせて刀装具関係の資料も探した。

##### ③飯塚桃葉・谷田忠兵衛の研究

徳島に縁の深いこれら漆工について、実態を解明するべく調査・研究を行った。

##### ④県下所在美術品の調査

県下個人の所蔵する美術品を調査した。

### 3. 科学研究費補助金による研究

#### ●基盤研究(B)一般(1)：二次草地の保全に向けた施策立案のための学際的・保全生態学的研究(平成14～16年度)

研究代表者：鎌田磨人(徳島大学工学部助教授)

当館の研究協力者：長谷川賢二、庄武憲子、磯本宏紀

#### ●奨励研究：ミドリババヤステ種複合体における生殖隔離機構の解明(平成15年度)

研究代表者：田辺 力

### 4. 他機関との共同研究

#### ●(社)土木学会四国支部受託研究の共同研究：「正木ダムに係わる河川環境総合調査」(平成10～15年)

研究代表者：岡部健士(徳島大学工学部教授)

当館の共同研究員：佐藤陽一

#### ●徳島大学地域貢献特別支援事業「学術標本・貴重資料データベース化事業」(平成15～16年度)

地域貢献特別支援事業は、徳島大学が自治体や地域的研究機関等と共同して行うもので、平成15～16年度の2年間、10件の個別事業が実施される。学術標本・貴重資料データベース化事業については、総合科学部教官を中心に計画され、当館学芸員に対し参画要請があったので、今後の共同研究の契機としても意義深いものと考え、協力することにした。

15年度は次のような取り組みを行った。

##### ①博物館・資料館所蔵資料データベース化に向けての検討(当館の協力者：両角芳郎、長谷川賢二、庄武憲子、磯本宏紀、辻野泰之)

##### ②国会議事堂の徳島県産石材に関する調査(当館の協力者：中尾賢一)

##### ③近世測量絵図の保存と展示に関する調査(当館の協力者：長谷川賢二)

#### ●鳴門教育大学教育改善推進費プロジェクト「四国遍路八十八カ所の総合的研究」(平成15年度)

研究代表者：大石雅章(鳴門教育大学教授)

当館の研究分担者：長谷川賢二、庄武憲子、磯本宏紀

### 5. 研究成果の公表

#### (1) 徳島県立博物館研究報告第14号

2004年3月31日発行、B5判140ページ、1,200部

(\*は館外研究者)

辻野泰之：香川県さぬき市兼割に分布する上部白亜系和泉層群の岩相と化石動物群. p.1-13.

三本健二\*・中尾賢一：高知県の鮮新統唐ノ浜層群の浮遊性貝類. p.15-25.

徳島県立博物館平成15年(2003)度課題調査「潜水漁の現在とその環境利用」の記録. p.27.

高橋健一\*：海に向こうから／海に向こうへー徳島県出羽島聞き書きー. p.29-45.

磯本宏紀：潜水漁をめぐる漁場空間・序説ー伊島における水平的共同空間と垂直的個別空間. p.47-56.

魚島純一：徳島県立博物館に新たに収蔵された徳島県内出土と伝えられる袈裟襷文銅鐸. p.57-68.

大原賢二・林正美\*：四国におけるトガリアメンボの

発見とその分布状況. p.69-83.

大原賢二：アサギマダラの移動に関する徳島県の記録  
(2002,2003年). p.85-112.

井戸浩之\*・吉田和人\*：標識調査により確認された徳  
島県の鳥類. p.113-128.

清水孝昭\*・薬師寺房憲\*：愛媛県肱川に遡上したサケ  
*Oncorhynchus keta*. p.129-132.

茨木 靖・木内和美\*・斎藤正\*：徳島県から新たに発  
見された帰化植物3種：アレチキンギョソウ, ニセ  
アゼガヤ, ホウキヌカキビ. p.133-135.

小川誠・木下覚\*・田淵武樹\*：園瀬川流域(徳島県)  
におけるフジバカマの分布. p.137-140.

## (2) 博物館ニュース “Culture Club” 欄記事

高島芳弘：辰砂の精製. No.51, p.2-3.

辻野泰之：生きた化石—オウムガイ—. No.52, p.2-3.

佐藤陽一：川環境と魚—FPOMの影響—. No.53, p.2-3.

庄武憲子：正月のまつりかた. No.54, p.2-3.

## (3) 当館刊行物以外への掲載 (\*印：館外研究者)

### ●査読付学術雑誌掲載論文

#### 〈動物〉

Kuwahara\*, Y., N. Mori\*, M. Sakuma\* and T. Tanabe  
(2003.12). (1Z)-and (1E)-2-Nitroethenylbenzenes,  
and 2-Nitroethyl-benzene as natural products in defence-  
secretions of a millipede *Thelodesmus armatus* Miyosi  
(Polydesmida: Pyrgodesmidae). *Japanese Journal of  
Environmental Entomology and Zoology*, 14: 149-155.

#### 〈植物〉

Funamoto\*, T. and M. Ogawa (2003.12). A cytogeographi-  
cal study in *Hydrangea paniculata* Sieb. (Saxifragaceae  
s. l.) in Japan. *Chromosome Science*, 6: 73-82.

Ibaragi, Y. (2003.12). The taxonomy of *Diandranthus*  
(Poaceae). *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica*, 54  
(2): 109-125.

Ibaragi, Y. and H. Ohashi\* (2004.2). A taxonomic study of  
*Miscanthus* section *Kariyasua* (Gramineae). *Journal of  
Japanese Botany*, 79(1): 4-22.

茨木 靖・木内和美\*・佐治まゆみ\*・成田愛治\*  
(2004.2) シラヒゲムヨウラン (ラン科) の新北限産  
地. *植物地理・分類学研究*, 51(2): 187-188.

#### 〈地学〉

Tsujino, Y., H. Naruse\* and H. Maeda\* (2003.9). Estima-  
tion of allometric shell growth by fragmentary specimens  
of *Baculites tanakae* Matsumoto and Obata (a Late Cre-  
taceous heteromorph ammonoid). *Paleontological Re-  
search*, 7(3): 245-255.

### ●一般著述 (単行本・図書)

#### 〈動物〉

大原賢二・荒川良\* (2003.3) 各地のアサギマダラ「四  
国」. 宮武陸夫・福田晴夫・金沢至編「旅をする蝶  
アサギマダラ」, むし社, 東京. p.213-217.

#### 〈植物〉

小川 誠 (2003.12) 矢原徹一監修「ヤマケイ情報箱  
レッドデータプランツ」, 山と溪谷社 (分担執筆).

茨木 靖 (2003.12) 矢原徹一監修「ヤマケイ情報箱  
レッドデータプランツ」, 山と溪谷社 (分担執筆).

#### 〈歴史〉

長谷川賢二 (2003.12) 徳島県立博物館. 解放出版社  
編「人権でめぐる博物館ガイド」, 解放出版社: 138-  
139.

長谷川賢二 (2004.3) 熊野信仰の広まり; 先達とその  
活動; 御師職の確立; 熊野先達と本山派. 本宮町史  
編さん委員会編「本宮町史 通史編」, 本宮町: 190-  
212, 254~262.

#### 〈民俗〉

庄武憲子 (2003.4) 『すまいとくらし』編集委員会編  
「阿波の民俗3 すまいとくらし」, 徳島市立図書  
館: 193-195, 215, 231-232, 243-246, 280-283, 321-  
323.

### ●一般著述 (逐次刊行物, その他)

#### 〈動物〉

大原賢二 (2003.10) 「2002年のマーク虫再捕獲記録一  
覧」. 日本鱗翅学会・アサギマダラプロジェクト編  
「アサギマダラ年鑑, 2002」 p.28-36.

佐藤陽一 (2003.5) 魚博士の吉野川魚図鑑連載第8回:  
オイカワ. 四国三郎吉野川, 14: 6.

佐藤陽一 (2003.7) 魚博士の吉野川魚図鑑連載第9回:  
カマツカ. 四国三郎吉野川, 15: 10.

田代優秋\*・上月康則\*・佐藤陽一・大久保美知子\*・  
山崎敬生\*・村上仁士\* (2003.9) 都市近郊農業水路  
における魚類相とその変動特性について. 土木学会  
第58回年次学術講演会講演概要集 CD-ROM: 155-  
156.

山崎敬生\*・上月康則\*・佐藤陽一・田代優秋\*・大久  
保美知子\*・小島雄\* (2003.10) カダヤシの攻撃に  
よるメダカの鱗の損傷. 2003年度日本魚類学会年會  
講演要旨: 70.

佐藤陽一・岡部健士 (2003.10) 河川性魚類の生息に  
及ぼす FPOM の影響. 2003年度日本魚類学会年會  
講演要旨: 74.

田代優秋\*・上月康則\*・佐藤陽一・大久保美知子\*・  
山崎敬生\*・村上仁士\* (2003.10) 都市近郊に残さ

- れた素堀水路内の魚類群集に関する調査. 応用生態工学会第7回研究発表会講演集: 43-46.
- 佐藤陽一・岡部健士\* (2004.3) 魚類調査. (社)土木学会編, ダム水環境改善事業調査・河川環境調査合併調査委託報告書: 勝浦川 勝浦郡上勝町~勝浦町 No.2, 平成16年3月. (社)土木学会, 東京: 6-1~13.
- 〈植物〉
- 木下 覺\*・植北ちず子\*・小川 誠・片山泰雄\*・木村晴夫\*・木内和美\*・真鍋邦男\*・水上敏夫\* (2003.3) 三野町の植物相. 阿波学会紀要 第49号 三野町総合学術調査, 阿波学会: 25-36.
- 小川 誠 (2003.12) 学芸員の仕事に使えるデータベース. 月刊ミュゼ, (61): 14-15.
- 小川 誠 (2003.11) 2003年度日本植物分類学会野外研修会実施報告. 日本植物分類学会ニュースレター, (11): 12-14.
- 茨木 靖・田淵武樹\* (2003.12) 徳島県において外来種セイヨウウキガヤ *Glyceria occidentalis* (Piper) J. C. Nelson を確認. 水草研究会誌, 79: 25-26.
- 茨木 靖・岩佐春香 (2003.12) ホウガンヒルギ属種子の徳島県への漂着. 漂着物学会誌 1: 33.
- 茨木 靖 (2003.12) ススキとオギ. 徳島の自然 64: 7.
- 〈地学〉
- 両角芳郎 (2004.3) 開館10周年に当たって. 松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館館報「歴史の里」(10): 8.
- 両角芳郎 (2003.10) アンモナイトのすべて—県立博物館企画展への招待 (上) パラブゾシア; (中) プラセンチセラス; (下) ニッポニテス. 徳島新聞10月24日, 25日, 27日夕刊.
- 橋本寿夫\*・元山茂樹\*・石田 啓祐\*・寺戸恒夫\*・森永 宏\*・中尾賢一・森江孝志\*・香西 武\*・福島浩三\*・川村教一\* (2003.3) 徳島県西部地域の和泉層群と中央構造線関連の地質・地形—三野町地域—. 阿波学会紀要 第49号 佐那河内村総合学術調査, 阿波学会: 1-12.
- 〈考古〉
- 魚島純一 (2004.3) 高松市宗高坊城遺跡より出土した赤色顔料付着遺物の蛍光 X 線分析について. 高松市埋蔵文化財調査報告書第68集「宗高坊城遺跡」, 高松市教育委員会: 42.
- 魚島純一 (2004.3) 高松市天満・宮西遺跡出土赤色顔料付着遺物の蛍光 X 線分析について. 高松市埋蔵文化財調査報告書第69集「天満・宮西遺跡~旧河道編~」, 高松市教育委員会: 85-87.
- 魚島純一 (2004.3) 高松市東中筋遺跡出土赤色顔料付着遺物の蛍光 X 線分析について. 高松市埋蔵文化財調査報告書第70集「東中筋遺跡」, 高松市教育委員会: 46-48.
- 魚島純一 (2004.3) 久本古墳出土赤色顔料付着陶棺の蛍光 X 線分析について. 高松市埋蔵文化財調査報告書第71集「久本古墳」, 高松市教育委員会: 57.
- 〈歴史〉
- 長谷川賢二 (2003.4-2004.3) 阿波圏一連携する学芸員; 合戦図とイラク戦争; 牟岐大島を歩く“鬼”の正体; 田んぼのにおい; 観心十界図に思う; 博物館と人権; 地名; 模索する博物館; ふるさと; ゴジラ; 厄年; コレクション. 徳島新聞4月5日; 5月3日; 5月31日; 6月28日; 7月26日; 8月23日; 9月20日; 10月18日; 11月15日; 12月13日; 1月10日; 2月7日; 3月6日朝刊.
- 長谷川賢二 (2003.4) 徳島県立博物館. 部落解放, (517): 116-117.
- 朝治 武\*・君塚仁彦\*・長谷川賢二・山本哲也 (2003.4) 座談会 博物館と人権. 部落解放, (517): 145-167.
- 長谷川賢二 (2003.7) 博物館を100倍楽しむ方法. 解放教育, (427): 62-64.
- 長谷川賢二 (2004.2) 最後の国学者小杉楹邨を考える—徳島地方史研究会・公開大会に寄せて—[下] 阿波国徴古雑抄. 徳島新聞2月21日朝刊.
- 長谷川賢二 (2004.2) 阿波の巡礼とその資料. 「四国遍路と世界の巡礼」編集委員会編「四国遍路と世界の巡礼国内シンポジウム・プロシーディングズ」青葉図書: 50-56.
- 長谷川賢二 (2004.3) 熊野信仰の広がり. 国文学 解釈と鑑賞, (874): 67-76.
- 長谷川賢二・岡島千代子\*・松下師一\* (2004.3) 座談会 博物館と学校との連携—「総合的な学習の時間」の実践から考える—. 松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館館報「歴史の里」, (10): 3-17.
- 佐々木優\*・佐藤信之\*・澤田孝利\*・高橋 啓\*・長谷川賢二・平山義朗\*・宮根 修\*・森本喜代貴\*・森本嘉訓\*・吉原明則\*・和田敏孝\* (2004.3) 徳島県教育委員会編「徳島県同和地区民俗文化史調査報告書5」, 徳島県教育委員会, 77pp.
- 〈民俗〉
- 庄武憲子 (2003.5) 「今山の農村舞台」復活への活動. 阿波農村舞台通信, (0), 阿波農村舞台の会: 4.
- 庄武憲子 (2004.3) 歴史家網野善彦先生をしのぶ. 徳島新聞3月3日朝刊.
- 庄武憲子 (2004.3) 那賀川町の猿轎; 新刊紹介 神山町成人大学編集部編『神山の民具』『神山の民具2』.

- 徳島地域文化研究, (2), 徳島地域文化研究会: 168-169, 189-190.
- 磯本宏紀 (2004.3) 山間地で使用されるからさお. 徳島地域文化研究, (2), 徳島地域文化研究会: 110-121.
- 磯本宏紀 (2004.3) 環境と生業. 福田アジオ編『小川島の民俗—群馬県利根郡月夜野町下津小川島—』, 神奈川大学: 26-34.
- 磯本宏紀 (2004.3) 「オガワジマクワ」という呼称. 福田アジオ編『小川島の民俗—群馬県利根郡月夜野町下津小川島—』, 神奈川大学: 110-117.
- (4) 学会・研究会等での発表 (\*印: 館外研究者)**
- 大原賢二 (2004.2) アサギマダラの移動の記録、2003年の四国の記録と全体から見た特徴. 日本鱗翅学会四国支部第9回例会 (新居浜市).
- 田代優秋\*・上月康則\*・佐藤陽一・大久保美知子\*・山崎敬生\*・村上仁士\* (2003.9) 都市近郊農業水路における魚類相とその変動特性について. 土木学会第58回年次学術講演会 (徳島).
- 山崎敬生\*・上月康則\*・佐藤陽一・田代優秋\*・大久保美知子\*・小島雄\* (2003.10) カダヤシの攻撃によるメダカの鱗の損傷. 2003年度日本魚類学会年会 (京都).
- 佐藤陽一・岡部健士 (2003.10) 河川性魚類の生息に及ぼすFPOMの影響. 2003年度日本魚類学会年会 (京都).
- 田代優秋\*・上月康則\*・佐藤陽一・大久保美知子\*・山崎敬生\*・村上仁士\* (2003.10) 都市近郊に残された素堀水路内の魚類群集に関する調査. 応用生態工学会第7回研究発表会 (北九州).
- 田代優秋\*・上月康則\*・佐藤陽一・山崎敬生\*・大久保美知子\*・小島雄\*・村上仁士\* (2003.10) カダヤシによるメダカの鱗の損傷とその影響について. 四国魚類研究会 (日和佐).
- 田辺 力・曾田貞滋\* (2003.8) 雌雄の利害の対立による急速な形態進化: ババヤステ属の交尾器. 日本進化学会福岡大会 (福岡).
- 田辺 力 (2003.8) 形態測定学夏の学校: 見てわかる幾何学的形態測定学. 日本進化学会福岡大会 (福岡).
- 田辺 力・曾田貞滋\* (2003.10) 雌雄の利害の対立による急速な形態進化: ババヤステ属の交尾器. 日本昆虫学会第63回大会 (厚木).
- 小川 誠 (2003.9) 徳島県産植物に関する2~3の新知見. 四国植物研究会 (香川県琴南町).
- 小川 誠 (2004.3) 徳島県立博物館の情報戦略. 博物館ホームページ推進研究フォーラム研究集会 (新潟県長岡市).
- 中尾賢一 (2003.9) 下部更新統口之津層群加津佐層の堆積環境と貝化石群. 日本地質学会第110年学術大会大会 (静岡).
- 中尾賢一・鎌滝孝信\*・藤原 治\*・小野 守\* (2004.1) 鳴門海峡北西部の海底から得られた最終氷期の貝化石. 日本古生物学学会第159回例会 (熊本県御所浦町).
- 辻野泰之 (2003.8) 異常巻アンモノイド: *Baculites tanakae* の相対成長の推定. 日本進化学会福岡大会 (福岡).
- 高島芳弘 (2004.1) 石井町前山古墳群の調査成果 第9回中国四国前方後円墳研究会 (徳島).
- 長谷川賢二 (2003.11) 阿波の巡礼とその資料. 「四国遍路と世界の巡礼」研究集会 (松山).
- 長谷川賢二 (2003.12) 四国山地の歴史・文化—歴史学からのアプローチに向けて—. 第1回四国草原保全研究フォーラム (東祖谷山).
- 長谷川賢二 (2003.12) 修験道当山派形成の一前提—徳島県神山町勧善寺所蔵大般若経巻二〇八奥書の検討を中心に—. 第43回四国中世史研究会 (中村).
- 長谷川賢二 (2004.1) 小杉榎邨と『徴古雑抄』 (大会準備報告). 徳島地方史研究会例会 (徳島).
- 長谷川賢二 (2004.2) 小杉榎邨と『徴古雑抄』. 第27回徳島地方史研究会公開研究大会 (徳島).
- 庄武憲子 (2003.4) 徳島県の盆棚. 徳島地域文化研究会例会 (徳島).
- 庄武憲子 (2003.5) 鬼籠野の年棚. 徳島民俗学会例会 (徳島).
- 庄武憲子 (2003.11) 昭和30年代の神山町のマチ. 徳島民俗学会例会 (徳島).
- 磯本宏紀 (2003.10) 伊島・出羽島の民俗調査におけるいくつかの問題提起. 徳島民俗学会例会 (徳島).
- 磯本宏紀 (2003.12) 潜水漁と漁場認知—伊島の事例から—. 徳島地域文化研究会例会 (徳島).
- 大橋俊雄 (2003.12) 藤重と茶器繕い. 漆工史学会総会 (大阪).

## 6. 研究会・学会等の開催

### ●植物談話会

開催日: 平成14年4月~15年3月までの毎月1回

開催 (土曜日の18:30から)

会場: 博物館実習室

参加者: 毎回約15名

- 徳島地域文化研究会総会・研究会  
開催日：4月29日(火)  
会場：博物館講座室  
参加者：18名
- 徳島地方史研究会総会  
開催日：5月11日(日)  
会場：博物館講座室  
参加者：10名
- 平成15年度鳴門史学会研究大会  
開催日：10月11日(土)  
会場：博物館講座室  
参加者：25名
- 平成15年度日本植物分類学会野外研修会  
開催日：11月8日(土)～9日(日)  
会場：博物館講座室・日和佐町ほか  
参加者：31名
- 第9回中国四国前方後円墳研究会  
開催日：1月24日(土)・25日(日)  
会場：二十一世紀館イベントホール  
参加者：140名
- 第9回四国地区歴史系学芸員・アーキビスト交流集会  
開催日：3月7日(日)  
会場：博物館講座室  
参加者：30名

## 7. 科学研究費補助金の申請を行うことができる学術研究機関の指定

当館では、平成9年に指定を受けようと文部省（当時）と協議を行ったことがあるが、その時は「博物館は社会教育機関であり、研究を主たる業務とする機関とは認めがたい」とのことで、申請を断念したことがある。

その後、平成13年8月の「機関の指定に関する要項」の改正により指定の基準が緩和されたのを受け、滋賀県立琵琶湖博物館、北九州市立自然史・歴史博物館などいくつかの博物館が指定を受けた。当館でも平成14年夏にこうした新しい動きを知り、申請に向けて文部科学省との協議をはじめ、平成15年4月に申請書および添付書類をまとめて提出した。その後、2、3の訂正と追加資料を求められたが、6月に最終的に受理され、7月22日付けで科学研究費補助金取扱規程第2条第4号の規定による研究機関の指定を受けた。

今後は、学芸員が優れた研究計画を立てて科学研究費補助金を申請し、それが採択されることをめざす努力が求められる。

## Ⅲ 資料収集保存事業

資料の収集と保存は、博物館にとって最も基本的な機能である。当館では開館以来次の4つを基本方針として資料を収集している。

1) 徳島の自然と人文に関する資料のすべてを収集の対象とする。

2) 地域に根ざしたテーマを設定し、計画的かつ集中的な収集をする。

3) 徳島の概要あるいは特性を把握するため、世界を対象とした比較資料の収集をめざす。

4) 一次資料のみならず、すべての二次資料をも収集する。

資料の収集手段としては、採集・購入・寄贈・交換など様々な方法で行っている。学芸員自らが積極的に収集しているほか、最近では、県民や官公庁からの資料の寄贈も増えてきている。また、資料の購入には美術品等取得基金を充てている。

収集した資料は、調査研究に役立てているだけでなく、展示や教育活動、他の博物館や研究者への貸し出しなどを通じて有効に活用している。

平成15年度も5名(人文2、自然3)の文化推進員・臨時補助員の補助を得て、資料の整理作業を進めた。

### 1. 採集資料

#### ●動物

シマヘビ	1点
ハツカネズミ	1点
鴨島町三谷川産魚類	24点
カムルチー稚魚	2点
イノシシ幼獣	1点
那賀川産カジカ・アユカケ	多数
カジカガエル	1点
愛媛県鴨川産魚類	多数
ハリセンボン	1点
日本産多足類	多数
ドブガイ	4点
トガリアメンボほか水生半翅類標本	多数
マレーゼトラップによる県内産昆虫	20,000頭

#### ●植物

県内各地の標本	多数
---------	----

#### ●地学

愛媛県土居町関川産岩石・鉱物	3点
高知県産鮮新世貝化石	多数
長崎県産更新世貝化石	多数
高知県産第三紀生痕化石	10点
和泉層群産白亜紀後期化石	5点

#### ●考古

石杵(阿南市水井町中野遺跡周辺)	9点
------------------	----

### 2. 購入資料

#### ●地学

こはく	1点
北投石ほか国内および外国産鉱物	6点
水鳥の足跡ほか外国産化石	4点
木の葉化石	16点
しのぶ石	1点
プシッタコサウルス	1点
輝安鉱	1点
コウイカの甲の化石	1点
補修痕があるペリスフィンクテス	4点
レバノン産板鰓類化石*	4点
アメリカ産恐竜の歯	4点
ドイツ・メッセル産動物化石	4点
チリ産カグラザメの歯化石(セット標本)	1点

#### ●歴史

御鷹狩図	1点
蜂須賀正武書状	1点
蜂須賀家武具・調度品	4点
緒方家文書複製	1点
菅生家文書複製	2点

#### ●民俗

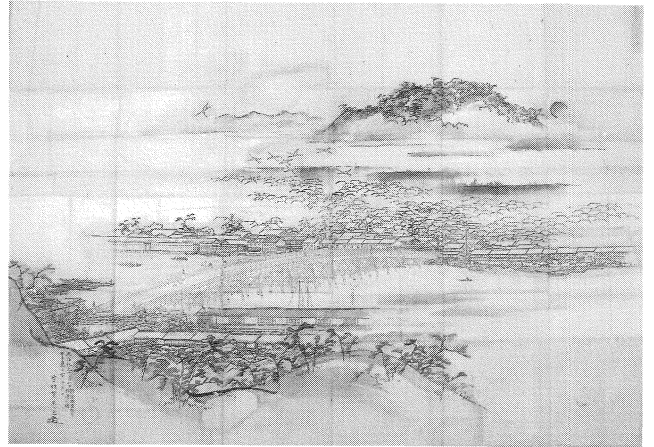
日本山海名産図会	5点
水産事項特別調査	1点
引札	11点

#### ●美術工芸

武内宿禰図絵馬*	渡辺広輝筆	1点
桜に鷹図	中山養福筆	1点
鯉図	松浦春挙筆	1点
扇散模様料紙硯箱	谷田蒔絵	1点



守住家画稿類



守住家画稿類中「新町橋渡初図」の下図

源氏物語夕顔図*	守住貫魚筆	1点
守住家画稿類*		3,763点
刀 銘	阿州泰吉作	1点
短刀 銘	阿州藩井上 (以下不明)	1点
短刀 銘	阿州横山彦兵衛慶定 享和元年五月日	1点
梅山水図	河野栄寿筆	1点
(*印は平成15年度博物館資料収集委員会における審査資料)		
購入資料合計		3,846点

牟岐川産他魚類標本	271点	徳島県農山村整備課
岡山県産アナグマ剥製	1点	伊賀上定彦氏
タヌキ	1点	徳山 豊氏
マジロ	1点	松浦小夜子氏
ハイタカおよびアオゲラ	2点	吉田 和人氏
旧吉野川水系産他魚類標本	46点	徳島県農山村整備課
ムササビ	1点	竹部 秀信氏
故蜂須賀正氏氏蔵書	703点	蜂須賀正子氏
ヒメアマツバメ雛鳥	1点	吉成 宏征氏
日和佐町沖から得られたクーゾーの角のニュース映像		
ビデオテープ	1点	四国放送
ハイタカ	1点	東條 秀徳氏
蜂須賀正氏氏関係文献	2点	森中 定治氏
吉野川産イドミミズハゼ他標本	3点	
国土交通省徳島河川国道事務所		
ヤブサメ	1点	坂口 正男氏
アオサギ	1点	吉田 和人氏
宍喰町産ドンコ写真	3点	山下 正和氏
物部川産魚類標本	多数	高橋 弘明氏
チョウゲンポウ	1点	太田 尚子氏
ハイタカ	1点	成田 愛治氏
北島町産魚類標本	多数	徳島県農山村整備課
トラフズク	1点	井戸 浩之氏
ノウサギ	1点	白井 啓二氏
山城町白川谷川産魚類標本	1点	徳島県河川課
ヒメアマツバメ巢	2点	
(財)徳島県文化振興財団		
城ヶ島産シビレエイ	1点	山田 和彦氏
●動物 (無脊椎動物)		
徳島県産甲虫類標本	369点	内田 清氏
徳島県産昆虫類標本	1,878点	桑野 公男氏

### 3. 寄贈資料

#### ●動物 (脊椎動物)

飯尾川産魚類業本	104点	徳島県河川課
宍喰川産魚類標本	49点	徳島県河川課
鴨島町壇池産他魚類標本	61点	徳島県農山村整備課
ニホンカモシカ	1点	徳島県文化財課
日和佐町奥方川産他魚類標本	222点	徳島県河川課
タウンギ	1点	吉田 正隆氏
徳島県産鳥類	多数	日本野鳥の会徳島県支部
愛知県産ナガレホトケドジョウ標本	1点	洲澤 譲氏
水産学会誌ほか学術雑誌バックナンバー	多数	吉田 勝彦氏
由岐町産エラブウミヘビ標本	1点	浜野 龍夫氏
園瀬川産魚類標本	2点	鍋島 昇氏
藍住町産キツネ	1点	藍住町保健衛生課



- 飯尾川産無脊椎動物 178点 徳島県河川課  
 徳島県産水生無脊椎動物 530点  
 フジタ建設コンサルタント  
 丸亀沖産無脊椎動物 36点 横川 浩治氏
- 植物
- シダ植物標本 1点 関原菊太郎氏  
 バタン島産ススキ属標本 1点 船越 英伸氏  
 セイヨウウキガヤ, タツノヒゲ 3点 田渕 武樹氏  
 徳島県産標本 多数  
 佐治まゆみ・成田 愛治氏  
 コンニャク果実標本 1点  
 内藤 禎蔵・ツヤ子氏  
 ウキガヤ属・ススキ属 各1点 木下 覚氏  
 生物季節観測用ススキ標本 1点 井関俊郎氏ら  
 海南町産植物標本 4点 斎藤 正氏  
 フタバガキ科など果実標本 7点 佐々木健志氏  
 ベトナム・インドネシア産種子標本 多数 西山 保典氏  
 ヌメリグサ属植物 1点 木村氏  
 ススキ標本 1点 酒井氏  
 ハマナタマメ果実 1点 池渕 正明氏  
 ダイズ 1点 大杉 桂氏  
 沖縄県産種子 3点 高原 建二氏  
 スナシバ標本 1点 黒沢 高秀氏  
 植物標本 107点  
 大阪市立自然史博物館
- スマレ属標本 1件 山田 直毅氏  
 スマレ属標本 1件 佐藤 荷澄氏  
 スマレ属標本 1件 伊藤 美代氏  
 フクジュソウ他 2点 西 郵局氏
- 地学
- 勝浦町貝・アンモナイト化石 10点 大地 晴明氏  
 石灰岩ほか化石・岩石 9点 松村 良弘氏  
 勝浦町および高知県産化石 7点 西川 忠行氏  
 上部蝦夷層群産バキュリテス 65点 辻野 泰之氏  
 日本各地の中新世～更新世貝化石 25点 吉田 浩一氏  
 高知県室戸市産クジラ化石 1点  
 鎌田 誠一・西川 忠行氏  
 高知県室戸市産クジラ化石 1点 六久保美智子氏  
 紀伊水道産ノコギリガザミ化石 1点 高橋美津子氏  
 建築用石材 24点 徳島石材産業(株)  
 アンモナイト化石 1点 神元 勉氏  
 南部北上山地産古生代化石 5点 藤田 吉広氏  
 エクロジャイト 2点 神野 裕之氏  
 鳴門海峡海底産ナウマンゾウ・貝化石 約15点 小野 守氏
- 高知県産鮮新世浮遊性巻貝化石19点 三本 健二氏  
 マダガスカル産前期白亜紀アンモナイト(修復痕あり) 1点 佐藤 征氏  
 北海道産後期白亜紀アンモナイト 4点 後藤栄治郎氏  
 淡路島産リビコセラス(白亜紀アンモナイト)完模式標本 1点 高田 雅彦氏  
 北海道産後期白亜紀アンモナイト 6点 福岡 幸一氏  
 高知県産鮮新世貝化石 5点 高橋 節氏  
 石材サンプルおよびカタログ 5点 (株)梅彦
- 考古
- 前山遺跡出土埴輪片・須恵器片 51点 大平馬喜太氏
- 歴史
- 阿波おどり衣装 3点 砂子 久雄氏  
 古式拳銃ほか 22点 田中 利子氏  
 尋常小学校教科書ほか 171点 元木 康夫氏  
 火縄銃 1点 藤井 伸生氏  
 板碑拓本 10点 竹篠 教悟氏
- 民俗
- 祭り用屋台ほか 10点 藤川 廣士氏  
 携帯竿秤 5点 岩佐 春香氏  
 手動式計算機 2点 佐藤 久子氏  
 赤だる 3点 中島 芳雄氏
- #### 4. 寄託資料
- 考古
- 平型銅剣 2点 神山町長  
 重郭文軒平瓦 1点 坂本 恵氏  
 神山町東寺銅剣 3点 山根 文雄氏  
 袈裟褌文銅鐸(安都真出土) 4点 高橋 浪子氏
- 歴史
- 蜂須賀家船旗ほか 3点 福田 幸大氏  
 阿波鳴門真景図 1点 武田 和昭氏  
 菅生文書ほか 4点 内田 英明氏
- 民俗
- 花火製作関連資料 6点 仁木 精一氏  
 賤が嶽七本槍三段目政右衛門(初代天狗屋久吉作)ほか 3点 四国放送
- 美術工芸
- 丹生明神画像ほか 4点 黄田 博司氏  
 丈六寺百川画賛ほか 20点 鬼田 洋一氏

## 5. 資料の貸し出し

### ●動物

メダカ・カダヤシ貸出用模型	1点	富岡小学校
イタチ剥製	1点	四国放送
クーゾー角	1点	四国放送
アオギス他デジタル画像	3点	
		徳島県鳴門土木事務所
ツルグレン装置	5台	川内北小学校

### ●地学

勝浦町産出イグアノドン歯化石(複製)ほか化石標本	22点	海南町立博物館
ニホンムカシジカ(角)	1点	
		きしわだ自然資料館

### ●考古

若杉山遺跡出土品	2点	山城町石の博物館
火おこし道具・復元青銅器・石鏃	44点	上勝中学校
火おこし道具	6点	川島高等学校
火おこし道具	12点	栃之瀬小学校
袈裟襷文銅鐸ほか	9点	
		徳島市教育委員会(徳島市立考古資料館)
銅鏡・銅鏃・鉄製武器	32点	
		徳島市教育委員会(徳島市立考古資料館)

### ●歴史

徳島大空襲関係資料	37点	
		ピースアクション2003
徳島大空襲関係資料	34点	四国放送
徳島大空襲関係資料	37点	川内中学校
徳島大空襲関係資料	37点	岩脇小学校
徳島大空襲関係資料	37点	上八万小学校
徳島大空襲関係資料	11点	上八万小学校

### ●分野別収蔵資料数(平成16年3月31日現在)

分野	点数	内 訳			
		実物	レプリカ	模型・模写	文献
動物(脊椎)	16,894	16,820	55	13	6
(無脊椎)	36,842	36,784	0	58	0
(昆虫)	184,768	184,368	0	3	397
植物	182,700	182,353	61	5	281
地学	7,433	7,337	94	2	0
考古	3,371	3,226	73	13	59
歴史	9,187	8,399	26	4	758
民俗	4,785	4,775	5	5	0
美術工芸	8,873	8,864	0	4	5
合計	454,853	452,926	314	107	1,506

### ●美術工芸

越前国白山真景図	守住貫魚筆	1点	石川県立歴史博物館
みとものつら絵巻	村瀬魚親筆	2点	社団法人霞会館
刀	阿州住氏吉ほか	6点	海南町立博物館

### ●民俗

天狗久障子絵ほか	20点	
		徳島市立徳島城博物館

## 6. 資料の交換

### ●植物(受入数)

東北大学(TUS)	260点
北海道大学(SAPS)	121点
福島大学(FUKU)	119点

## 7. 館蔵資料数

平成16年3月末日現在の分野別収蔵資料数は次表のとおり。

収蔵資料については、整理、標本作製等がすんだものから順次コンピュータ入力し、資料データベースを作成している。

## 8. 資料収集委員会

館長の諮問に応じて博物館における購入資料について審査する機関として、博物館資料収集委員会が設置

## ●博物館資料収集委員会委員

(◎ 委員長、○ 副委員長)

氏名	役職(専門分野)
◎石田 啓祐 米澤 義彦	徳島大学総合科学部教授(地学) 鳴門教育大学学校教育学部教授 (生物)
○福原 健生	元徳島市立徳島城博物館館長 (美術工芸)
坂本 憲一	(財)徳島県文化振興財団事業部主幹 (民俗)
桑原 恵	徳島大学総合科学部教授(歴史)

されている。本委員会は、「美術品等取得基金による美術品等の取得要領」の規定に従って、200万円以上の購入資料について審査する。

委員は常任委員(5名以内、任期2年)と特別委員(3名以内)から構成されており、特別委員は、購入資料に応じて特に必要がある場合にその都度委嘱される。

本年度は、平成16年2月6日に第17回委員会を開催し、「1. 購入資料」にリストした人文資料3件および自然資料1件の購入を諮問した。

## 9. 文献資料の収集

文献資料から得られる情報は、調査研究にはもちろんのこと、展示や普及教育などの博物館活動全般にわたるレベルアップをはかる上で不可欠である。当館では、人文・自然史分野の専門書や学会誌のほか、徳島県を中心とした地方史誌類や普及教育用図書も収集している。また、内外の博物館等の研究報告・年報・展示解説書等も交換により収集している。

## ●購入図書冊数(データベース登録数)

11,600冊(平成15年度分 339冊)

## ●購入雑誌

自然史系(26タイトル): 生物科学、科学、日経サイエンス、海洋と生物、月刊海洋、遺伝、プラント、月刊むし、昆虫と自然、地学雑誌、月刊地球、American Journal of Botany, Cladistics, Episodes, Evolution, Geology, Journal of Evolutionary Biology, Journal of Paleontology, Nature, Paleobiology, Plant Systematics and Evolution, Science, Systematic Botany, The American Naturalist, Trends in Ecology and Evol., Lethaia, Palaeontology

人文系(34タイトル): 美術研究、美術史、佛教芸術、地方史研究、地理、芸術新潮、芸能史研究、月刊

考古学ジャーナル、月刊文化財、月刊文化財発掘出土情報、季刊考古学、考古学と自然科学、古文化財の科学、古代文化、古代学研究、国華、古文書研究、考古学研究、考古学雑誌、九州考古学、民族学研究、日本の美術、日本民俗学、日本歴史、日本史研究、歴史学研究、歴史評論、歴史と地理、歴史地理学、史林、史学雑誌、信濃、Folklore, Journal of American Folklore

## ●当館刊行物の定期発送先(平成16年3月末現在)

博物館ニュース		1,427ヶ所
博物館年報		492ヶ所
研究報告	国内	551ヶ所
	国外	152ヶ所
展示解説		238ヶ所
企画展図録	自然	132ヶ所
	人文	236ヶ所

## 10. 資料の燻蒸

収集した資料、貸し出し後返却された資料は、原則としてすべて収蔵庫への搬入、展示に先だって燻蒸を行う。

当館では資料の形態や量などによって、次の3種類の燻蒸を行っている。

## ●減圧燻蒸装置による燻蒸

小型資料の燻蒸は、資料の受け入れのつど、担当学芸員が減圧燻蒸装置を使って行う。減圧燻蒸装置の有効内寸は、たて130cm×よこ120cm×奥行140cm(約2.3m<sup>3</sup>)で、燻蒸剤には臭化メチルと酸化エチレンの混合ガスを使用している。

15年度は18回の減圧燻蒸装置による燻蒸を行った。

## ●常圧燻蒸庫での燻蒸

減圧燻蒸装置に入れることができない大型の資料は、一時保管庫(24時間空調)に仮収蔵し、資料が適当な量になった時点で常圧燻蒸庫で燻蒸する。

常圧燻蒸庫は床面積20m<sup>2</sup>×高さ3m(約60m<sup>3</sup>)であり、燻蒸は文化財専門の燻蒸業者に委託し、燻蒸剤には臭化メチルと酸化エチレンの混合ガスを使用している。

15年度は、3回の常圧燻蒸庫での燻蒸を行った。

## ●収蔵庫の全室密閉燻蒸

収蔵庫への出入りなどにもなっており、害虫やカビなど資料の保存に悪影響を与えるものが侵入することがある。そのために、原則として3年に1回、専門業者に委託して収蔵庫の全室密閉燻蒸を行っている。

前回は14年度に実施したため、15年度は実施していない。

## Ⅳ 普及教育事業

普及教育事業、とくに普及行事は、「開かれた博物館」をめざし、館員が県民と直接交流できるよい機会であり、力点をおいて取り組んでいる。

平成15年度は、年間71回の普及行事を実施した（実施計画では76回、雨天などでの中止5回。他にクイズラリー24回を行った）。普及行事は県民のあいだに定着してきてはいるが、参加者は徳島市内とその近郊在住者に片寄っている。そのため、歴史散歩、野外自然かんさつ、移動講座において、郡部での開催を増やすなどの工夫をしているが、徳島市以外での行事に対しても参加者は徳島市、鳴門市、小松島市、及び名西郡石井町等からの参加者が多い。今後、広報の方法などにもさらに工夫が必要であると考えている。

### 1. 普及行事

#### ■歴史体験

昔の人々の生活に関係のある体験を通じて、ものの性質や当時の人々の生活の知恵を学ぶシリーズ。

4月19日(日)	石ヤリをつくろう	参加者	41人
6月15日(日)	土器文様の作り方		6人
6月22日(日)	勾玉をつくろう		48人
7月19日(土)	火おこし①		47人
8月3日(日)	火おこし②		33人
8月16日(土)	戦時中の食事・すいとんをつくろう		28人
11月16日(日)	石のナイフで切ってみよう		20人
12月7日(日)	ベーゴマをまわしてみよう		24人
1月25日(日)	七輪で鍛冶屋さん		25人

#### ■歴史散歩

県内の主な遺跡、町並み、建造物などを見学してまわるシリーズ。

5月25日(日)	古墳見学①		42人
10月5日(日)	石造物をさがそう		21人
11月23日(日)	万年山を歩こう		22人
12月14日(日)	古墳見学②		20人
1月18日(日)	一宮城を歩こう		35人
3月21日(日)	古墳見学③		36人
3月28日(日)	池田を歩こう		22人

#### ■野外自然かんさつ

野外にでかけて行う季節に応じた動植物の観察や地質の見学会。15年度は文化の森周辺のほか、徳島市、鳴門市、引田町、勝浦川河口、那賀川町、羽ノ浦町、由岐町、などで実施した。

5月4日(日)	眉山の地質見学		28人
5月18日(日)	磯のいきもの①		64人
6月1日(日)	磯の生き物②		中止
7月13日(日)	川魚かんさつ		41人
7月27日(日)	漂着物を探そう!		24人
8月2日(土)	水生昆虫の観察		53人
9月6日(土)	鳴く虫のかんさつ		47人
9月28日(日)	河口のいきもの		29人
10月12日(日)	アサギマダラをさがそう		中止
11月2日(日)	鉱物さがし		22人

#### ■室内実習

主に実習室で行う各種の観察会、講習会。内容に応じて実体顕微鏡、電子顕微鏡、蛍光X線分析装置、赤外線テレビカメラ等の機器も併用して観察を行っている。

「標本の名前を調べる会」は、毎年8月下旬に行う恒例の行事で、学芸員のほか8名の外部講師の応援を得て実施した。単に名前を教えるだけにならないで、いっしょに調べる姿勢で取り組むよう留意している。

4月27日(日)	春の植物かんさつ		17人
5月25日(日)	ミクロの世界－電子顕微鏡で昆虫を見よう①		33人
6月8日(日)	ミクロの世界－電子顕微鏡で化石を見よう①		22人
8月2日(土)	植物標本の作り方・名前の調べ方		11人
8月10日(日)	かんたんな貝の標本の作り方		25人
8月27日(水)	標本の名前を調べる会		250人
9月7日(日)	ミクロの世界－電子顕微鏡で植物を見よう①		27人
9月14日(土)	こどもレプリカ教室		46人
10月19日(日)	秋の植物観察－花のつくりをしらべよう－		8人
12月6日(土)	ミクロの世界－電子顕微鏡で化石を見よう②		14人

1月18日(日)	落ち葉の中のいきものたち①	23人
2月8日(日)	貝化石標本の作り方	22人
2月15日(日)	ミクロの世界—電子顕微鏡で植物を見よう②	25人
2月29日(日)	落ち葉の中のいきものたち②	31人
3月7日(日)	ミクロの世界—電子顕微鏡で昆虫を見よう②	40人

### ■みどりの探検隊

4月20日(日)	春の吉野川に咲く植物を探そう	中止
5月11日(日)	春の溪谷に咲く花を探そう	中止
8月10日(日)	夏の吉野川に咲く花を探そう	中止
10月5日(日)	秋の吉野川に咲く花を探そう	8人
10月26日(日)	秋の溪谷に咲く花を探そう	11人

### ■みどりの工作隊

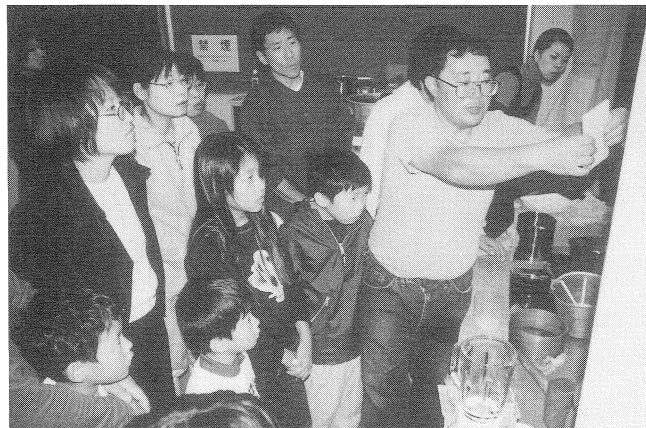
自然の材料を使い、遊びの要素を取り入れた実習。

7月20日(日)	押し葉カルタであそぼう	24人
8月24日(日)	葉脈標本できれいなしおりを作ろう	33人
11月3日(月)	ドングリゴマを回そう	131人
11月30日(日)	雑草や木で年賀状を作ろう	28人
2月22日(日)	竹であそぼう	33人

### ■ミュージアムトーク

土曜日の午後に、学芸員が各自の研究テーマや身近な話題について話をするシリーズ。申し込み不要・定員先着50名で実施している。

4月26日(土)	歴史を決めた戦い	22人
6月7日(土)	民具と地域—カラサオー	2人
7月26日(土)	やさしい地層と化石のはなし	21人
9月20日(土)	阿波の中世文書—その謎をさぐる—	14人
1月17日(土)	お地蔵さんの仏像	17人



雑草や木で年賀状を作ろう

3月13日(土)	美しいアンモナイトのはなし	8人
----------	---------------	----

### ■移動講座

移動博物館の試みとして、学芸員が講師をつとめて館外の社会教育施設と共催で行う講座。15年度は11～12月に阿波海南文化村で実施した。

11月9日(日)	文芸に見る阿波の中世①	13人
12月7日(日)	文芸に見る阿波の中世②	24人

### ■企画展関連行事

企画展開催中に、次の講演会、展示解説等の行事を行った。

#### ●企画展「歴史を決めた戦い」記念講演会

5月11日(日)

会場：21世紀館イベントホール

講師：西ヶ谷恭弘（日本城郭史学会代表）

演題：鉄砲と長篠合戦

参加者：140人

#### ●企画展「歴史を決めた戦い」展示解説

第1回：4月27日(日) 参加者 51人

第2回：5月18日(日) 参加者 41人

#### ●アイヌ文化フェスティバル講演会

7月19日(土)

会場：21世紀館イベントホール

講師：丸山隆司（藤女子大学文学部教授）

演題：知里幸恵の〈言語〉

参加者：212人

#### ●アイヌ文化フェスティバル芸能公演

7月19日(土)

会場：21世紀館野外劇場

公演：ムックリ演奏とアイヌ古式舞踊、口承文芸、アイヌ民族音楽演奏ほか

参加者：727人

#### ●企画展「アイヌからのメッセージ—ものづくりと心—」記念講演会

7月21日(月)

会場：21世紀館イベントホール

講師：大塚和義（国立民族学博物館教授）

演題：鳥居龍蔵とアイヌ文化

参加者：104人

#### ●企画展「アイヌからのメッセージ—ものづくりと心—」展示解説

第1回：7月20日(日) 参加者34人

第2回：8月10日(日) 参加者35人

#### ●企画展「アイヌからのメッセージ—ものづくりと心—」関連体験学習（博物館実習室）

①アイヌの楽器ムックリをつくろう

7月27日(日) 参加者 99人

②アイヌ文様を彫ってコースターをつくろう

8月17日(日) 参加者 67人

●企画展「アンモナイトのすべて」記念講演会

11月9日(日)

会場：21世紀館イベントホール

講師：岡本 隆（愛媛大学理学部助教授）

演題：アンモナイトを復元する

参加者：110人

●企画展「アンモナイトのすべて」展示解説

第1回：10月26日(日) 参加者 50人

第2回：11月16日(日) 参加者 45人

■クイズラリー

毎月第2・第4土曜日（祝日を除く）に、小・中・高校生を対象にクイズラリーを実施している。この行事は、常設展の活用と入館者の獲得を目的に始めたもので、参加者が展示資料に関する簡単な問題を解きながら観覧することで、新しい発見につながることを期待している。参加者全員に簡単な記念品を贈呈している。

4月12日(土)	105人	(小 101・中 4・高0)
4月26日(土)	117人	(小 112・中 5・高0)
5月10日(土)	113人	(小 108・中 4・高1)
5月24日(土)	138人	(小 123・中 12・高3)
6月14日(土)	122人	(小 116・中 6・高0)
6月28日(土)	126人	(小 116・中 10・高0)
7月12日(土)	94人	(小 91・中 3・高0)
7月26日(土)	101人	(小 90・中 11・高0)
8月9日(土)	113人	(小 101・中 12・高0)
8月23日(土)	108人	(小 92・中 16・高0)
9月13日(土)	133人	(小 127・中 5・高1)
9月27日(土)	160人	(小 152・中 7・高1)
10月11日(土)	143人	(小 138・中 5・高0)
10月25日(土)	116人	(小 109・中 5・高2)
11月8日(土)	152人	(小 146・中 6・高0)
11月22日(土)	121人	(小 118・中 3・高0)
12月13日(土)	122人	(小 121・中 1・高0)
12月27日(土)	68人	(小 68・中 0・高0)
1月10日(土)	105人	(小 103・中 2・高0)
1月24日(土)	93人	(小 89・中 3・高1)
2月14日(土)	75人	(小 75・中 0・高0)
2月28日(土)	104人	(小 103・中 1・高0)
3月13日(土)	125人	(小 121・中 4・高0)
3月27日(土)	110人	(小 109・中 1・高0)
参加者合計	2,764人	(小2,629・中 126・高9)

■その他の普及行事

●博物館こどもの日フェスティバル

5月5日(月)

博物館と友の会の共催でウォークラリーを実施した。文化の森に10のチェックポイントを設置し、それぞれの問題を解きながら各施設をめぐる。小学生以下の子どもたちには記念品を贈呈した。

参加者：1,025人

## 2. 講師派遣、テレビ・ラジオへの出演等

館外からの依頼を受けて行った講師派遣、テレビ・ラジオへの出演等を、月日・担当者・内容（依頼者）の順に記す（内容に依頼者が表現されている場合は依頼者を省略）。これらも広義の普及教育活動につながるとの観点から、業務に支障のない限り依頼を受け入れることにしている。

- 4月8日 茨木 靖 NHK テレビ「情報交差点とくしまーカルチャーアンドネイチャー」出演（サキシマスオウノキとモモタマナ）
- 7月24日 魚島純一 徳島県立文書館古文書保存講座で講演「文書資料の保存科学」
- 8月30日 魚島純一 四国放送ラジオ「JRT ラジオまつり 遊びの広場」出演（ベーゴマ指導担当）
- 9月2日 両角芳郎 NHK テレビ「情報交差点とくしまーカルチャーアンドネイチャー」出演（アンモナイトのいろいろ）
- 9月5日 茨木 靖 四国放送テレビ「おはよう徳島」阿部近一氏の寄贈資料の紹介
- 9月7日 長谷川賢二 平成15年度北近江歴史大学で講演「修験道—伊吹山と山岳信仰—」（滋賀県山東町ルッチ・プラザ）
- 9月20日 山川浩實 NHK「武蔵」テレビセミナーで講演「合戦とサムライ—関ヶ原の戦いと蜂須賀氏」
- 9月12日 長谷川賢二 第2回徳島県隣保館関係職員研修会「トーク&トーク 部落差別の現実とその根源を問う」パネラー（国民宿舎津乃峰荘）
- 9月18日 長谷川賢二 人権保育係保育士研修会で講演「部落差別と迷信・ケガレ観念のあいだ」（徳島市保険福祉部）
- 10月8日 大橋俊雄 第23回徳島県シルバー大学校穴吹校講義「弘法大師のもたらした仏像」
- 11月18日 大橋俊雄 第23回徳島県シルバー大学校三加茂校講義「弘法大師のもたらした仏像」

- 10月20日 大橋俊雄 第23回徳島県シルバー-大学校  
鳴門校講義「弘法大師のもたらした仏像」
- 12月4日 大橋俊雄 第23回徳島県シルバー-大学校穴  
吹校講義「弘法大師のもたらした仏像」
- 12月6日 山川浩實 徳島城址を愛する会第3回セミ  
ナーで講演「徳島城の構えとその特徴について」
- 1月13日 大橋俊雄 第23回徳島県シルバー-大学校小  
松島校講義「弘法大師のもたらした仏像」
- 1月27日 長谷川賢二 平成15年度徳島市文化財保勝  
会連絡協議会文化財研修会で講演「中世の熊野信仰  
と阿波」(昴宿よしの)
- 1月30日 大橋俊雄 第23回徳島県シルバー-大学校徳  
島校講義「弘法大師のもたらした仏像」
- 2月25日 茨木 靖 NHK テレビ「情報交差点とく  
しま Nature and culture」出演(飛ぶ種)

### 3. 博物館実習生の受け入れ

博物館実習は、博物館法施行規則第1条で、学芸員となる資格を取得するために「大学において修得すべき博物館に関する科目」と規定されているもののひとつで、登録博物館または博物館相当施設における実習で修得することになっている。

当館では、大学からの依頼により原則として県出身の学生を受け入れることにし、夏休み期間中に実習を行っている。4月1日～5月15日が受付期間で、希望者が多い場合は調整を行い、20数名をめぐり承諾書を発行することとしている。

平成15年度は、8月25～29日に実習生の受け入れを

行った。実習生は25人(男8人、女17人)で、大学別の内訳は次のとおりである。

徳島大学	3人	法政大学	1人
神戸学院大学	1人	京都女子大学	2人
四国大学	10人	高知女子大学	1人
徳島文理大学	2人	鳴門教育大学	2人
東海大学	1人	奈良女子大学	1人
金沢大学	1人		

カリキュラムは別表のとおりである。学芸員と普及係職員が指導にあたり、資料の整理や調査などについての実習を行った。

### 4. 学校教育との連携

博物館ではこれまでも、学校行事(遠足等)での団体見学の受け入れや児童・生徒向けの各種普及行事などを行ってきた。しかし、最近の教育改革に伴う学校完全週5日制や「総合学習」の導入、社会人講師の受入れ等々と関連し、博物館等の社会教育機関に対してもっと積極的な学校教育への支援が要請されるようになってきた。

博物館は本来、実物資料に基づく体験的な学習ができる場であり、学校教育にとって役立つところであるはずである。当館としても博物館のもつ資源(もの・情報・人)とその活用法を普及するとともに、意識的・系統的に学校教育を支援する活動を行っていくことにしている。

平成12・13年度には「博物館と学校との連携に関する研究会」(略称「博学連携研究会」)を組織し、博物

#### ●2003年度博物館実習カリキュラム

月/日	午前(9:30~12:00)	午後(13:00~16:00)
8/25(月)	オリエンテーション(中尾)	展示実習(部門展示室)(山川) A班
	博物館の運営について(両角)	展示・普及行事 企画立案実習(田辺) B班
	館内見学(中尾)	植物の標本と文献の整理(小川) C班
8/26(火)	化石標本のスケッチと写真撮影法(辻野)	化石標本の整理(辻野) A班
	淡水魚調査(佐藤)	植物の標本と文献の整理(小川) B班
	企画展 展示見学(庄武)	民具資料の整理(磯本) C班
8/27(水)	標本の名前を調べる会(中尾)	標本の名前を調べる会(中尾) A班
	報告書整理(高島)	報告書整理(高島) B班
	美術資料の取扱い(大橋)	歴史資料整理(長谷川) C班
8/28(木)	普及行事の準備(火おこし)(魚島)	植物標本の作製と整理(茨木) A班
	美術資料の取扱い(大橋)	普及行事の準備(火おこし)(魚島) B班
	化石標本の整理と登録(中尾)	普及業務(普及係) C班
8/29(金)	普及業務(普及係)	展示・普及行事 企画立案実習(田辺) A班
	普及業務(普及係)	歴史資料整理(山川) B班
	昆虫(セミ)採集~標本づくり(大原)	昆虫(セミ)採集~標本づくり(大原) C班

A: 理科系を含む8人、B: 8人、C: 9人

館と学校との連携のあり方等についての協議を行ってきた。それを踏まえて、14年度は各支援を発展させ、成果を教育利用説明会で発表した。また、平成15年度は、教職員向けの博物館利用リーフレットを作成した。

### (1) 学校の授業での博物館利用への支援

理科や社会科の授業、「総合学習」での活動と関連して、クラスやグループ単位で博物館を利用する例が増えてきた。受け入れに当たっては、展示資料だけでなく必要に応じて収蔵資料を見てもらったり、学芸員が助言するなどの支援を行った。

- ①鴨島養護学校（鴨島町）16人  
5月15日（木）  
企画展「歴史を決めた戦い」の展示説明を日本史の授業の一環として、学芸員が説明を行った。（担当者：山川）
- ②板野南小学校（板野町）3年生・35人  
6月27日（金）  
「博物館へ行こう」の授業として来館。学芸員が博物館の裏側を案内。（担当者：大原）
- ③上八万小学校（徳島市）4年生・72人  
10月15日（水）  
総合学習「太鼓づくり」で来館。常設展を見学後、講座室で太鼓の歴史や、徳島における太鼓づくりについて講話を行った。（担当者：長谷川）
- ④久勝小学校（阿波町）6年生・30人  
10月31日（金）  
特別授業「化石のはなし」で常設展・企画展の観覧を兼ねて来館。所蔵資料を臨時に実習室へ陳列し、学芸員が説明しながら化石についての授業を行った。（担当者：中尾）
- ⑤八万南小学校（徳島市）3年生  
10月31日（金）125名；11月18日（火）44名  
総合学習（調べ学習）で来館。1日目に博物館の



八万南小学校3年生の博物館探検

展示や文化の森各施設を見学し各々が課題を設定した。その中で博物館について課題をもっている児童が2日目再来館。それぞれの課題について学芸員が説明後、博物館の裏側見学も行った。（担当者：両角・中尾・庄武・佐藤・茨木・大原）

- ⑥福島小学校（徳島市）3年生・80名  
11月7日（金）  
「むかしの道具調べ」で来館。民具の観察とスケッチを行った。（担当者：磯本・古東）
- ⑦上八万小学校（徳島市）4年生・120名  
11月14日（金）  
総合学習のテーマとしてとくしま空襲を講座室で説明。その後常設展を見学した。（担当者：山川）
- ⑧早稲田実業学校（東京都）高等部2年生・5人  
12月9日（火）  
校外教室（地域調査）「徳島の文化」で来館。（担当者：大橋）

### (2) 学校の授業への講師派遣（出前授業）

学校からの依頼に応じて、学校での授業に学芸員を派遣した。授業では教員と協同し、持参した博物館資料を活用するなどして、児童・生徒の理解を助けるよう工夫した。

- ①大松小学校（徳島市）4月30日（水）  
6年生2クラスで社会科の学習「火おこし」の授業を、博物館から持参した火おこしの道具を使って教員と協同して行った。（講師：魚島）
- ②八万南小学校（徳島市）5月7日（水）・8日（木）  
6年生3クラスで社会科の学習「火おこし」の授業を、博物館から持参した火おこしの道具を使って教員と協同して行った。（講師：魚島）
- ③板野南小学校（板野町）5月28日（水）  
3年生35名に昆虫の体のつくりを説明し、世界の代表的な昆虫の標本を見ながら、昆虫の紹介を行った。（講師：大原）
- ④上八万小学校（徳島市）7月11日（金）  
5年生83名に学校の近くを流れる園瀬川の水生昆虫の採集と観察を行った。（講師：大原）
- ⑤国府小学校（徳島市）6月23日（月）  
全校生徒を対象にして、総合学習で用水路の魚類生息調査を行った。（講師：佐藤）
- ⑥宮井小学校（徳島市）7月1日（火）  
5-6年生が、総合学習のテーマとしてホタルの生息できる環境について研究を行っており、当日研究授業が行われた。その発表会の後、参加した理科担当の教員約40名にホタルについての一般的な説明を行い、宮井小学校周辺の水系の環境とホタルの生



息の可能性について話した。(講師：大原)

- ⑦八万南小学校(徳島市) 7月9日(水)  
4年生127名を対象に、文化の森総合公園下の園瀬川で水生昆虫の採集と観察を行った(講師：大原)
- ⑧助任小学校(徳島市) 9月22日(月)  
3年生138名に、総合的な学習での「吉野川」の一環として、「吉野川の生き物について」授業を行った。(講師：佐藤)
- ⑨国府養護学校(徳島市) 10月1日(水)  
高校3年生8名を対象に土器づくりのうち形をつくることだけを行った。(講師：高島)
- ⑩国府養護学校(徳島市) 10月8日(水)  
文様の道具のつくりにかたや使い方の説明をしながら、前回形をつくった土器に、実際に文様をつけてもらった。(講師：高島)
- ⑪城東高等学校(徳島市) 10月9日(木)  
1年生の総合学習「職業ガイダンス」において、人文科学グループ9名に対し、学芸員の仕事について話した。(講師：長谷川)
- ⑫山口小学校(阿南市) 10月21日(火)  
6年生10名を対象に地層と化石についての授業を行った。(講師：中尾)
- ⑬城西高等学校(徳島市) 10月31日(金)  
3年生20名を対象に中生代の化石についての授業を行った。(講師：辻野)
- ⑭上八万小学校(徳島市) 11月4日(火)  
4年生83名を対象に園瀬川の魚の観察を行った。(講師：佐藤)
- ⑮芝生小学校他(三野町) 11月5日(水)  
6年生64名を対象に地層のでき方や中央構造線についての授業を行った。(講師：辻野)
- ⑯木頭小学校(木頭村) 11月13日(木)  
6年生8名を対象に地層と化石についての授業を

行った。(講師：辻野)

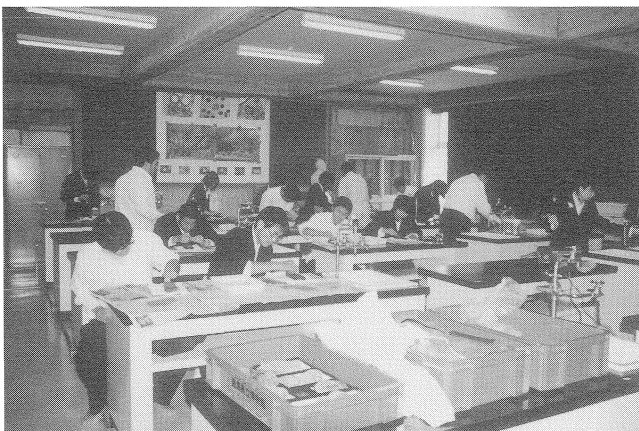
- ⑰柘之瀬小学校(東祖谷山村) 11月25日(火)  
1、2年生7名を対象に「いろいろなタネと実」の授業を行った。(講師：茨木)
- ⑱柘之瀬小学校(東祖谷山村) 11月25日(火)  
3、4年生13名を対象に「民具調べ」の授業を行った。(講師：磯本)
- ⑲山口小学校(阿南市) 1月15日(木)  
6年生1クラスで総合的な学習として調べ学習をし、授業参観で発表をした「銅鐸」についての出前授業を行った。学校では、出前授業を受けて、さらに現地調査などを含む調べ学習を追加し、再度発表する機会を設けた結果、生徒の学習意欲を高めることに成功した。(講師：魚島)

### (3) 博物館資料の学校への貸出し

学校の授業等で活用してもらうため、平成10年度から博物館資料の学校への貸出しを行っている。学校貸出用資料リストを学校に配布して利用を呼びかけているが、まだ利用は少ない。

貸出用資料の一層の利用促進を図るため、昨年度末に学校貸出用資料解説シートを印刷し、今年度小中学校および高校に配布した。また、来館した教職員には必要に応じて解説シートを配布し利用を勧めた。

- ①富岡小学校(阿南市) 5月10日  
貸出資料：めだか模型  
利用目的：理科の授業で利用
- ②富岡小学校(阿南市) 10月10日～10月15日  
貸出資料：化石標本28点  
利用目的：児童の理科学習で利用
- ③上勝中学校(上勝町) 6月8日～6月18日  
貸出資料：火おこし道具・武具セット  
利用目的：社会科の授業で利用
- ④上勝中学校(上勝町) 6月29日～7月8日  
貸出資料：復元青銅器・トロトロ石器等  
利用目的：社会科の授業で利用
- ⑤川島高等学校(川島町) 6月14日～6月29日  
貸出資料：火おこし道具  
利用目的：学校教育の一環で利用
- ⑥柘之瀬小学校(東祖谷山村) 7月24日～8月1日  
貸出資料：火おこし道具  
利用目的：学校教育の一環で利用
- ⑦川内中学校(徳島市) 9月13日～9月30日  
貸出資料：徳島大空襲資料  
利用目的：社会科ならびに総合学習の時間に利用。
- ⑧岩脇小学校(羽ノ浦町)  
貸出資料：徳島空襲パネル他



城西高校での化石の出前授業風景

利用目的：総合的な学習

⑨上八万小学校（徳島市）

貸出資料：徳島空襲パネル他

利用目的：総合的な学習

(4) 職場体験の受け入れ

中学校・高校での職場体験事業の受け入れを行い、生徒に博物館業務を体験してもらうことによって、博物館に対する認識を高めることができた。

①八万中学校（徳島市） 8月26日～27日

3名 総合学習の一環として実施。

②阿波高校（阿波郡） 9月10日～12日

1名 県インターンシップ推進事業

(5) 教員のための研修

徳島県教育委員会等からの依頼により、教員対象の研修会を当館で実施し、当館職員が指導に当たった。

①名西郡小学校理科部会研修会

7月28日(月) レプリカづくり実習 参加者11名

(講師：魚島)

②県内公立小学校教員「やさしい理科実験・観察講座」

7月30日(水) 文化の森周辺の植物 参加者24名

(講師：茨木)

③徳島県高等学校教育研究会理科部会地学部

11月19日(水) 貝化石標本の作り方 参加者15名

(講師：中尾)

④平成15年度10年経験者研修

7月23日(水) 参加者19名

古代の乳製品「蘇」をつくろう (講師：長谷川)

落ち葉の中のいきもの (講師：田辺)

8月1日(金) 参加者18名

勾玉をつくろう (講師：魚島)

川魚の採集と観察 (講師：佐藤)

8月8日(金) 参加予定者18名

土器づくり (講師：高島)

(悪天候のため中止)

⑤徳島市小学校教育研究会総合部会

10月16日(木) 参加予定者18名

「石のナイフで切ってみよう」(講師：高島)

(6) その他

博物館での授業、講師派遣、資料の貸出しに限らず、学校の授業やクラブ活動等で自然観察、生活体験、歴史学習等をしようとする場合、どんなことをしたらおもしろいか、どんな資料が活用できるかなどについて、学芸員が博物館での普及行事等の経験を踏まえて教員の相談に応じることにしている。

①京都市理科研究会

5月24日(土) 徳島県内で行う地学系巡検についての情報提供 (対応：中尾)

②徳島市立高校理数科1年生(3名)と引率教員1名

3月31日(火) 微化石の観察方法と研究の進め方 (対応：中尾)

## 5. 博物館の広報活動

博物館ニュースをはじめ、企画展ポスター、年間催し物案内リーフレット、月間催し物案内等を定期的に幅広く配布することにより、博物館活動のPRにつとめている。これらは県庁記者クラブを通じて広報するほか、報道機関やタウン紙編集室などへも直送している。また、必要に応じて報道機関への資料提供を行っている。さらに、電子メールを利用した催し物案内サービスも行った。

●博物館ニュース、ポスター等の主な県内定期発送先

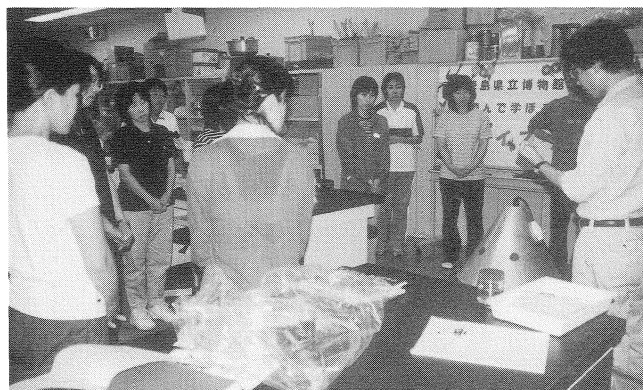
小学校	241ヶ所
中学校	92
高等学校・その他学校	59
学会・研究所・同好会等	100
県および県教育委員会各課・機関	66
市町村教育委員会	50
公民館・隣保館	228
市町村および大学図書館	33
博物館施設	435
宿泊施設	38
報道関係機関等	72

●電子メールサービス

登録者 430人 (平成16年3月31日現在)

●報道機関への資料提供

毎月の催し物案内・県庁だよりへの掲載や、美術品等取得基金によって3月末、8月末に購入した資料の



10年経験者研修

内容についても資料提供を行った。

- 4月2日 県立博物館の購入資料について  
 4月9日 企画展「歴史を決めた戦い—信長の台頭から家康の覇権まで—」の開催について  
 6月18日 部門展示「巡礼の世界」の開催について  
 8月15日 国広作 刀・脇指の寄贈について  
 8月25日 部門展示「徳島城と天守閣」の開催について  
 8月29日 「とくしまミュージアムスタンプラリー」の実施について  
 9月5日 県立博物館の購入資料について  
 9月20日 企画展「アンモナイトのすべて」の開催について  
 12月19日 常設展特設コーナー「申（さる）」の展示について  
 1月23日 特別陳列「日本刀の美—赤羽刀とその他の館藏品」の開催について  
 1月23日 部門展示「楠氏寄贈の美術品」の開催について  
 2月6日 常設展特設コーナー「牟岐大島の自然とくらし」の展示について  
 3月2日 部門展示「復元青銅器」の開催について

## 6. 博物館友の会

### ●会員（平成15年度末）

個人会員（年会費 2,000円）	106人
家族会員（年会費 3,000円）	84組・312人
賛助会員（年会費10,000円）	1人

### ●役員（平成15年度）

会長：行成正昭  
 副会長：和田賢次・関眞由子・両角芳郎（博物館長）  
 幹事：石原 侑・徳山 豊・多田精介・樫原剛一・南部洋子・木下 覚・澤祥二郎・大杉洋子

石尾和仁

監査：森本康滋・川下浩子

### ●事業

#### ①博物館出版物の増刷・頒布

博物館発行の企画展図録および解説書の増刷・頒布を行った。

#### ②広報活動

15年度会員に対し、博物館ニュース、企画展チラシ、月間行事案内、年間催し物案内などを送付した。また、友の会会報「アワーミュージアム」No.22～24を発行し、会員に送付した。

#### ③企画展説明会

企画展「歴史を決めた戦い」、「アイヌ工芸品展」、及び「アンモナイトのすべて」の開催期間中に、会員を対象とした説明会を行った。

#### ④野外活動等

会員を対象とした行事を8回実施した。

##### ○こどもの日フェスティバル（博物館と共催）

文化の森全体を使ってウォークラリーを実施した。近代美術館や文書館の協力も得て10のチェックポイントをめぐった。参加した小学生以下の子どもたちには記念品を進呈した。

日時：5月5日(月) 9:30～16:00

場所：文化の森総合公園及び各施設

参加者：1025人

##### ○第10回 園瀬川探検

日時：6月8日(日) 9:00～15:00

場所：佐那河内村

参加者：6人

##### ○自然体験 「田植え」、「稲刈り」

日時：6月28日(土)、10月25日(土)

場所：八万町

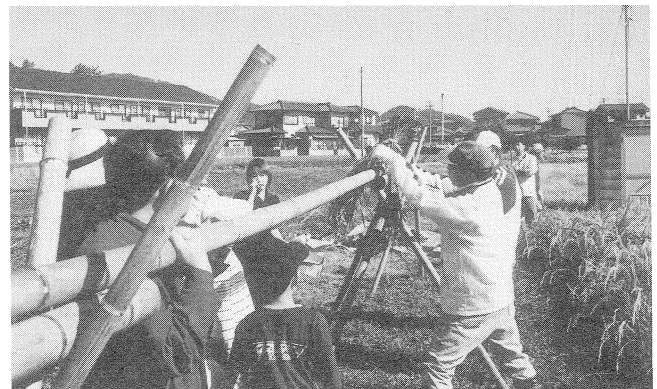
参加者：7人（のべ14人）

##### ○秋の研修会 「しまなみ海道美術館探訪」

日時：9月7日(日) 7:10～18:15



こどもの日フェスティバル



稲刈り

場 所：愛媛県大三島方面

参加者：42人

○第11回 園瀬川探検

日 時：10月26日(日) 9:00~15:00

場 所：佐那河内村

参加者：5人

○冬の研修会「晩秋の土佐路を訪ねて」

日 時：11月22日(土)~23日(日)

場 所：高知県越知町・室戸市方面

参加者：24人

○落ち葉の中の生き物 special

日 時：2月1日(日)

場 所：博物館実習室

参加者：12人

## 7. 普及教育関係出版物

### ■博物館見学ノート

2001年11月3日第3版発行、B5判56ページ

小・中学校の児童・生徒が博物館の展示を利用するにあたり、その教育効果を高めるのに役立つように作成されたワークシート形式のテキスト。

利用方法は多様であるが、主に遠足等で来館しワークシートでの学習を行う学校に配布している。

### ■博物館ニュース

館の広報誌で、内容は、学芸員の研究の一端を紹介する“Culture Club”、館蔵品紹介、野外博物館、企画展案内、情報ボックス、レファレンス Q&A、普及行事の案内と記録などから構成されている。A4判・8ページ(全ページカラー)で6,000部を印刷している。

平成15年度には次の4号を発行した。また、当館ホームページでも公開している。

●No. 51 (2003年6月15日発行)

Culture Club 辰砂の精製

企画展 アイヌ工芸品展 アイヌからのメッセージ  
ーものづくりと心ー

館蔵品紹介 八貫渡銅鐸

情報ボックス 南の島からやってきた木の実

友の会活動紹介 園瀬川探検

●No. 52 (2003年9月16日発行)

Culture Club 生きた化石 オウムガイ

館蔵品紹介 世界のコガネムシ科ほか甲虫類標  
本ー石田正明コレクションー

企画展 アンモナイトのすべて

歴史散歩 戦争のモニュメント

レファレンス Q&A 「蘇民将来」のお札ってどんなものですか？

●No. 53 (2003年12月1日発行)

Culture Club 川環境と魚 ーFPOMの影響ー

館蔵品紹介1 徳島市眉山の鉱物

館蔵品紹介2 森祖仙筆猿図 佐野山陰賛

情報ボックス 火打ち石ー忘れ去られた徳島県の名産品ー

レファレンス Q&A 秋の七草が減っているのは本当ですか？

●No. 54 (2004年3月25日発行)

Culture Club 正月のまつり方

情報ボックス 博物館に寄贈されたりビデオセラスの  
ホロタイプ

企画展 サメの世界

野外博物館 洞窟の生きものたち

レファレンス Q&A 徳島城の石垣の積み石には、  
どのような刻印がありますか？

### ■その他

#### ●博物館催し物案内

1年間の普及行事予定を掲載したB4判4つ折のリーフレット。14万部印刷し、県内の小・中・高校生及び教職員全員に配布した。また、博物館ニュースとともに発送するほか、展示室入り口に置いて来館者に自由にとってもらったり、普及行事の参加者に配布したりしている。

#### ●月間催し物案内

各月の普及行事の実施要領、申し込み方法等の案内を印刷したB4のビラ。報道関係機関等に配布するほか、来館者にも提供している。

#### ●博物館引率の手引き

学校の遠足などの利用に役立つよう、博物館の入館案内、見学に当たっての留意点、観覧料減免申請手続きなどについて説明した印刷物。年度初めに県内各学校に送付している。

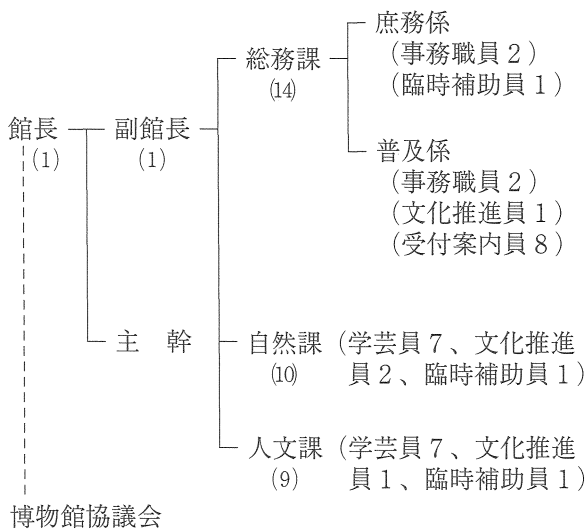
#### ●博物館の学校支援事業案内

博物館が行っている学校への支援事業を、内容別に紹介したパンフレットを作製し、各学校へ送付した。

# V 管 理 運 営

## 1. 組織・職員

### (1) 組織図 (平成16年4月1日現在)



- 専門学芸員 佐藤 陽一 (動物)
- 主任学芸員 小川 誠 (植物)
- 〃 田邊 力 (動物)
- 〃 中尾 賢一 (地学)
- 学 芸 員 茨木 靖 (植物)
- 〃 辻野 泰之 (地学)
- 文化推進員 柳本 和美
- 〃 友成 陽子
- 臨時補助員 松田 裕子
- 〈人文課〉
- 人文課長 山川 浩實 (歴史)
- 専門学芸員 高島 芳弘 (考古)
- 主任学芸員 大橋 俊雄 (美術工芸)
- 〃 長谷川賢二 (歴史)
- 〃 魚島 純一 (考古・保存科学)
- 〃 庄武 憲子 (民俗)
- 学 芸 員 磯本 宏紀 (民俗)
- 文化推進員 松本 絵梨
- 臨時補助員 中川由可里

### (2) 職員名簿 (平成16年4月1日現在)

- 館 長 両角 芳郎
- 副 館 長 吉田 廣
- 主 幹 (総務課長兼務) 齊藤 修一
- 〈総務課〉
- 総務課長 (庶務係長兼務) 齊藤 修一
- 事務主任 川田 純子
- 普及係長 幸坂 敏行
- 主 事 古東 謙司
- 文化推進員 新居 京
- 臨時補助員 渡部 志保
- 受付案内員 小川まどか
- 〃 高本 順子
- 〃 岩本 和恵
- 〃 鈴木 真弓
- 〃 横田 奈々
- 〃 飯沼 美喜
- 〃 尾崎 敏美
- 〃 河野 怜子

#### 〈自然課〉

- 自然課長 大原 賢二 (動物)

### (3) 人事異動 (平成16年4月1日付、カッコ内は前職)

- 退職：木村 忠昭 (平成16.3.31退職)
- 転出：上野 秋利 北川小教頭へ
- 〃 亀井 美穂 相生土木事務所主事へ
- 転入：吉田 廣 (鴨島保健所主幹兼健康増進課長)
- 川田 純子 (徳島財務事務所事務主任)
- 幸坂 敏行 (羽浦小教諭)

### (4) 平成15年度非常勤・臨時職員

- 文化推進員 (非常勤特別職)
- 松本 絵梨 (平成14.4.1～ )
- 新居 京 (平成15.4.1～ )
- 柳本 和美 (平成15.5.1～ )
- 友成 陽子 (平成15.5.1～ )
- 臨時補助員
- 武内 実香 (平成15.4.1～16.3.31)
- 吉田 恵美 (平成15.4.1～16.3.31)
- 秋枝真由美 (平成15.4.1～16.3.31)
- 受付案内員 (非常勤特別職)

## ●平成15年度博物館費

(単位:千円)

科目	予算額計	管理運営	展覧事業	調査研究	資料収集保存	普及教育
報酬	25,650	25,650				
賃金	6,588	6,588				
報償費	1,425		475	380	320	250
旅費	8,839	921	2,662	4,231	845	180
需用費	28,497	3,553	15,403	3,559	4,179	1,803
役務費	18,487	1,808	13,493	639	1,782	765
委託料	7,351		5,985		1,366	
借損	1,393	659	474	120		140
備品費	38,118	1,618	1,190	480	*34,830	
負担金	149	81		68		
計	136,497	40,878	39,682	9,477	43,322	3,138

註) \*のうちには、資料購入費29,880千円を含む。

行譜ゆかり (平成13. 5. 9~15. 4.30)  
 小川まどか (平成13. 9. 1~ )  
 高本 順子 (平成14. 2. 1~ )  
 岩本 和恵 (平成15. 2. 8~ )  
 浅石 由美 (平成15. 4. 1~15.10.31)  
 鈴木 真弓 (平成15. 4. 1~ )  
 横田 奈々 (平成15. 4. 1~ )  
 大西恵理子 (平成15. 4. 1~16. 3.31)  
 飯沼 美喜 (平成15. 5. 1~ )  
 尾崎 敏美 (平成15. 11.1~ )

## ●徳島県立博物館協議会委員名簿

(平成15年3月31日現在)

区分	氏名	役職等
学校教育	張野 晴伸	県小学校教育研究会理科部会長 日和佐小学校校長
	藤田 憲夫	県中学校教育研究会社会科部会長 三島中学校校長
	立石 恵嗣	県高等学校教育研究会地歴学会副会長 徳島北高等学校教頭
社会教育	澤田 英敏	徳島市立徳島城博物館副館長
	岡本 照彦	日和佐うみがめ博物館館長
	大石 雅章 (副会長)	鳴門教育大学教授
学識経験	中村 昌宏 (会長)	徳島文理大学教授
	佐野 英子	徳島新聞社事業局事業部副部長
	友滝 洋子	藍住町国際交流協会会長
	田中 育代	車いすテニスサークル「フィフティーマップ」車椅子の選手

評価の在り方に関する調査研究委員会報告書」について

(4) その他

## ●第2回博物館協議会

日時:平成16年3月10日(水)13:30~16:00

会場:博物館講座室

議事(1)平成15年度事業の実施状況について

(2)「博物館運営の活性化・効率化に資する

## 2. 予算

2月補正後の予算額を上表に示す。

## 3. 博物館協議会

徳島県立博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関で、博物館法及び徳島県文化の森総合公園文化施設条例の規定に基づき設置されている。

15年度は協議会を2回開催した。

## ●第1回博物館協議会

日時:平成15年8月21日(木)13:30~16:00

会場:博物館講座室

議事(1)平成14年度決算及び事業報告について

(2)平成15年度予算及び事業計画について

(3)「博物館運営の活性化・効率化に資する

- 評価の在り方に関する素案」について  
 (3) 公立博物館評価の現状について  
 (4) その他

#### 4. 各種委員・非常勤講師等の受諾

平成14年度に博物館職員が委嘱を受けた各種委員会委員、大学非常勤講師等は次のとおり。

両角芳郎

日本博物館協会評議員

(平成14. 6.18～16. 3.31)

愛媛大学農学部非常勤講師

(平成15. 4.14～16. 3.31)

徳島県教育委員会スーパーサイエンスハイスクール  
 運営指導委員会委員

(平成15. 7. 3～18. 3.31)

本村忠昭

徳島市立徳島城博物館協議会委員

(平成14. 7. 1～16. 6.30)

大原賢二

徳島県希少野生動植物保全対策検討委員会委員

(平成15.11.11～16. 3.31)

佐藤陽一

徳島県田園環境検討委員会委員

(平成13.11.26～17.11.25)

とくしま川づくり委員会委員

(平成13.12.15～17.12.14)

徳島県ビオトープアドバイザー

(平成15. 4. 1～16. 3.31)

徳島県公共工事環境配慮指針検討委員会委員

(平成15. 6.23～16. 3.31)

環境省希少野生動植物種保存推進員

(平成15. 7. 1～18. 6.30)

那賀川流域フォーラム2030アドバイザー

(平成15.10.17～16. 3.31)

徳島県希少野生動植物保全対策検討委員会委員

(平成15.11.11～16. 3.31)

田辺 力

沖縄県版レッドデータブック改訂作業ヤスデ・ムカ  
 デ類分科会委員

(平成14.12. 1～ )

環境省希少野生動植物種保存推進員

(平成15. 7. 1～18. 6.30)

徳島県希少野生動植物保全対策検討委員会委員

(平成15.11.11～16. 3.31)

小川 誠

日本植物分類学会絶滅危惧植物専門第一委員会委員

(平成13. 7. 1～16.12.31)

徳島県田園環境検討委員会委員

(平成13.11.26～ )

徳島県ビオトープアドバイザー

(平成15. 4. 1～16. 3.31)

徳島県公共工事環境配慮指針検討委員会委員

(平成15. 6.23～16. 3.31)

環境省希少野生動植物種保存推進員

(平成15. 7. 1～18. 6.30)

徳島県希少野生動植物保全対策検討委員会委員

(平成15.11.11～16. 3.31)

山川浩實

徳島市立考古資料館協議会委員

(平成15. 7. 1～17. 6.30)

高島芳弘

徳島大学総合科学部非常勤講師

(平成15. 4. 1～16. 3.31)

徳島市立考古資料館資料展示検討委員会委員

(平成14. 6. 1～16. 5.31)

長谷川賢二

徳島県歴史の道整備活用総合計画策定委員

(平成13. 9.21～16. 3.31)

徳島県人権資料収集検討委員会委員

(平成14. 6.28～ )

徳島県同和問題啓発をすすめる会専門委員

(平成15. 4. 1～16. 3.31)

平成15年度徳島県民俗文化史調査報告書執筆委員

(平成15. 5.16～16. 3.31)

魚島純一

四国大学非常勤講師

(平成15. 4. 1～15. 9.30)

庄武憲子

松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館協議  
 会委員

(平成15. 4. 1～17. 3.31)

#### 5. コンピュータシステム

平成11年度にCOMET（徳島県文化・学習情報システム）のコンピュータシステム更改が行われ、一般への情報提供システム及び業務システムに係わる部分  
 が変更された。特に情報提供システムはインターネット  
 ベースに変更された。しかし、5年をめどに行われて  
 きたシステムの更新が、財政事情の悪化により、現

時点では全体の更新がいつ行れるか、まだ明確にはなっていない。

### (1) システム構成

博物館のコンピュータシステムは、職員が日常的に使う業務用、来館者や館外者が利用する情報提供用の2つから構成されている。

業務系と情報提供系の機器構成、および管理等についてはこれまでと変わっていない。

### (2) システムの活用

#### ●資料管理

博物館では収蔵資料をデータベースに登録している。資料データベース作成は、各分野ごとに担当学芸員が様々な目的に応じた柔軟なデータの加工ができるよう、市販ソフトであるファイルメーカー Pro を用いて行っている。

データベースを使って、資料ラベルや資料目録の作成、資料受入れ・貸出し管理、各種調査や問い合わせのデータ作成、情報提供用データの作成等の作業を行っている。

#### ●各種データベースの構築

資料管理以外にも次のような各種のデータベースを構築し、共有している。

- ・ 図書データベース
- ・ 画像データベース
- ・ 文献データベース
- ・ 発送先住所データベース

#### ●普及活動及び広報活動への活用

各種の広報用印刷物はパソコンを使って編集し、データを印刷業者に渡したり、レーザープリンタで出力したものを原稿として用いている。15年度も、催し物データベースを構築し、それを利用して催し物案内文の作成、行事記録の作成を行うようにした。さらにデータベースと電子メールソフトを連携して、電子メールでの催し物案内サービスを行っている（16年3月末現在の登録者430名）。

#### ●COMET を通じての情報提供

文化の森では、COMET を通じて来館者や各家庭にさまざまな情報提供を行っている。博物館でも収蔵資料データベースや図書データベースを公開しており、情報提供する項目のテキストデータおよび画像情報を専用フォルダーに入れておけば、夜のうちに自動的に情報提供用のデータベースに取り込まれる仕組みになっている。

#### ●ホームページによる情報提供

インターネット利用者の増加に伴い、博物館でもそ

の技術を活用した情報提供の可能性を探ってきた。平成11年の夏から、次期 COMET システムの実験という性格も兼ねて、新ホームページの運用を始めた。ホームページの主な項目は下記のとおりである。

- ・ 博物館の紹介（開館日・交通案内など）
- ・ 展示案内（企画展、常設展）
- ・ 催し物、普及行事の案内
- ・ 調査研究活動の紹介
- ・ 収集保存活動（データベース）
- ・ 学校等への利用案内
- ・ 出版物（展示解説、研究報告、博物館ニュースなどの案内）
- ・ 友の会、博物館協議会
- ・ 学芸員関連のページ
- ・ 特別メニュー（子供向けメニュー、映像コーナーなど）

#### ●インターネットの活用

電子メールやホームページを職員が利用できるようになり、各種問い合わせや連絡、情報の収集に活用している。メーリングリストを利用し、博物館や研究者間の情報交換もさかんに行われている。

#### ●展示活動への活用

企画展の展示パネルの多くやラベルは、パソコンで作成し、レーザープリンタや大型カラープリンタで印刷したものを使うようになった。

#### ●博物館業務管理への活用

日常の博物館業務管理にもシステムを活用しており、常設展、企画展の入館者記録などの管理定型作業や集計作業の効率化を図っている。

## 6. 博物館ネットワーク

### (1) 四国地区博物館協議会及び日本博物館協会四国支部

四国地区博物館協議会及び日本博物館協会四国支部は、四国地区の博物館及び相当施設の連絡・協議組織で、現在93館（園）が加盟している。四国地区の会長（支部長）を担当する館が2年ずつ持ち回りで幹事館をつとめることになっている。

平成15年度の役員会及び総会は次のとおり高松市で開催された。

#### ●15年度役員会・総会

日時：6月24日（火） 10：30～15：00

会場：香川県歴史博物館

議事：平成14年度事業報告及び決算報告について  
新規加盟施設の紹介



平成15年度事業計画案及び予算案について  
講演：関 優一氏（JR 四国営業部長）「やさしさを持って」

●研修視察 6月25日(水) 9:00~12:00

場所：香川県歴史博物館

内容：日本博物館協会専務理事の報告及び特別展「平山郁夫」展の視察

## (2) 徳島県博物館協議会

徳島県内の博物館施設が相互協力して博物館活動の振興をはかるため、平成8年2月27日に設立された。加盟館は、設立時は31館であったが、その後、年々加盟館が増え、平成16年3月末現在では52館になっている。なお、事務局は当館に置かれている。

●15年度新規加盟館（2館）

鳴門ガレの森美術館、川田民俗資料館

●15年度事業

①役員会の開催

6月10日(火)、1月20日(火)の2回、徳島県立博物館応接室にて開催した。

②総会の開催

日時：6月10日(火) 14:30~16:30

場所：徳島県立博物館講座室

議事：14年度事業報告並びに決算報告  
監査報告

15年度役員選出

15年度事業計画並びに予算案

会則の改正

その他

講演：田村 一郎氏（鳴門市ドイツ館）「最近の鳴門市ドイツ館の取り組みから」

③加盟館園の職員状況一覧、主な収蔵資料リスト一覧を作成して配布した。

④徳島県博物館協議会ニュースの発行

No.14,15を発行・配布した。

⑤研修会の開催 参加者45名

日時：8月22日(金) 13:00~16:30

場所：徳島県立文学書道館

内容：文学書道館の施設概要と事業運営についての説明

とくしまミュージアムスタンプラリーの実施についての打ち合わせ

⑥とくしまミュージアムスタンプラリーの実施

15~16年度にまたがる事業として9月1日から開始した。加盟館園のうち本ラリーに参加する46館の全館あるいは4つのエリアに分けた各エリア全館のスタンプを集めた人の中から、抽選で10人に完走賞

を、40人に地域賞を贈呈するものである。

抽選は平成16年3月末と12月末の締切ごとに2回行われることになっているが、3月末の締切では5人の地域賞応募者があり、全員に地域賞（1,000円分の商品券）を贈った。

⑦先進地の博物館施設の調査 参加者19名

日時：11月28日(金) 9:00~18:00

訪問先：新居浜市広瀬歴史記念館、愛媛県総合科学博物館

## (3) 人権資料・展示全国ネットワーク

人権資料・展示全国ネットワーク（略称「人権ネット」）は、人権確立のための研究、教育、啓発に寄与することを目的に、人権に関する資料の収集保管、調査研究、展示等を行う博物館、資料館、人権センター、研究所等により、平成8年に結成された。現在、30機関・団体が加入しており、事務局は大阪人権博物館、柳原銀行記念資料館、水平社博物館、福岡県人権啓発情報センター、たかみや人権会館で組織されている。

当館は発足時から加入しており、年1回の総会に職員を派遣するほか、加入機関との個別的な協力も行っている。

第8回目にあたる15年度総会は、11月9~10日、鳥取県民ふれあい会館（鳥取市）で開催された。22機関・団体から40名の参加があった。

## (4) 西日本自然史系博物館ネットワーク

平成12・13年度に文部科学省の委嘱を受けて行われた環瀬戸内地域自然史系博物館ネットワーク推進事業の継承と発展をはかるため、大阪市立自然史博物館および兵庫県立人と自然の博物館が主導して、個人参加によるゆるやかな連携組織としてNPO法人西日本自然史系博物館ネットワークが設立されることになった。

設立総会は9月10日に大阪市立自然史博物館で開催され、16館から25名が参加した。また、平成16年2月29日には16年度総会および設立記念シンポジウムが奈良県立橿原文化会館で盛大に開催された。

本ネットワークには2月29日時点で22館園の学芸員等（当館からは3名の学芸員）が参加している。

## 7. 常陸宮同妃両殿下のお成り

第16回全国健康福祉祭徳島大会開会式に御臨席のため徳島県を訪れた常陸宮同妃両殿下が、10月17日に文化の森総合公園においでになった。

両殿下は、文化の森の概要説明を受けられた後、開催中の博物館企画展「アンモナイトのすべて」および常設展をご覧になった。

また、御休憩の後、常陸宮殿下は生物収蔵庫で、研究のため当館に送られてきていた皇居および赤坂御所で採集された昆虫類に関心深くご覧になった。妃殿下は近代美術館の常設展をご覧になった。

## 8. 視察等博物館関係来訪者

- 4月25日 柴田勝次郎氏（柴田勝家子孫）夫妻  
 5月10日 鳳来町立長篠城址史跡保存館長馬場高夫夫妻  
 6月20日 鳥取市関係学校同和教育主任等一行 29名  
 7月25日 高知県立歴史民俗資料館学芸員  
 泉 誠司・野本亮氏  
 8月28日 五條市人権教育推進協議会一行 15名  
 9月24日 九州大学名誉教授 西谷 正氏ほか1名  
 10月1日 豊橋市立自然史博物館学芸員 安井謙介氏  
 10月13日 御所浦白亜紀資料館学芸員 菊池直樹氏  
 11月3日 五部PTA 一行 42名  
 11月27日 京田辺市三木山福社会館運営委員会一行  
 10名  
 12月11日 奈良大学教授水野正好氏ほか 20名  
 1月21日 文化庁分化財部記念物課文化財調査官  
 岡田康博氏ほか2名  
 1月27・28日 法政大学キャリアデザイン学部助教授  
 金山喜昭氏  
 2月21日 神戸大学国際文化学部助教授 萩原 守氏  
 3月15日 文部科学省大臣官房文教施設部技術課技術  
 第二係長 加藤圭治氏ほか2名  
 3月24日 三原町教育委員会一行 7名

# Ⅵ 観覧者統計

平成14年度から小・中・高校生の日曜、日曜、祝日および長期休業中は、常設展、企画展とも無料になったため、無料観覧者数が大きく増えている。そのために13年度までの無料入館者とまったく同質の表示はできなくなった。累計表においてはすべての区分での入館者数を表示するのは困難であるため、13年度までの方式で表示したものである。

## ●平成15年度 博物館常設展観覧者数

(単位：人)

開館 日数	有 料 観 覧 者												無 料 観 覧 者												観 覧 者 総 数				
	個 人			団体 (割引20%)			減免 (割引50%)						有 料 観 覧 者 計	学 校 教 育						個 人				無 料 観 覧 者 計					
	一般	高校・ 大学生	小・中 学生	一般	高校・ 大学生	小・中 学生	大 人			高校・ 大学生	小・中 学生	幼稚園・ 保育園 園数		小学校		中学校		高 校		計		小学生	中学生			高校生	その他		
							高齢者	障害者	計					校	人数	校	人数	校	人数	校	人数								
4月	26	522	25	23	16	0	0	131	5	136	0	0	722	1	13	1	76	4	418	1	176	7	683	616	62	27	580	1,968	2,690
5月	27	672	45	10	102	0	0	113	6	119	0	0	948	4	266	17	1,580	0	0	3	223	24	2,069	1,135	108	63	1,650	5,025	5,973
6月	25	669	15	7	127	51	0	121	3	124	0	0	993	0	0	3	241	0	0	1	4	4	245	557	14	34	303	1,153	2,146
7月	27	841	17	10	14	0	0	77	4	81	0	0	963	1	14	0	0	1	29	0	0	2	43	1,003	75	42	751	1,914	2,877
8月	27	2,012	45	0	34	0	0	382	16	398	0	0	2,489	1	36	0	0	0	0	0	1	36	1,921	204	151	908	3,220	5,709	
9月	25	775	42	10	14	40	0	81	5	86	0	0	967	1	20	0	0	0	0	0	1	20	902	51	34	1,010	2,017	2,984	
10月	27	675	19	10	11	1	0	83	12	95	0	0	811	3	115	20	1,366	0	0	0	22	1,481	896	66	32	753	3,228	4,039	
11月	26	715	11	9	19	1	2	270	46	316	0	0	1,073	5	334	12	809	0	0	1	168	18	1,311	1,291	74	98	2,523	5,297	6,370
12月	23	322	13	0	23	0	0	52	4	56	0	0	414	1	17	0	0	0	0	0	1	17	343	28	31	316	735	1,149	
1月	23	409	49	3	9	24	0	45	7	52	0	0	546	2	235	0	0	0	0	0	2	235	479	35	27	434	1,210	1,756	
2月	25	600	38	2	3	0	0	78	9	87	1	0	731	3	64	1	7	0	0	0	4	71	534	16	41	540	1,202	1,933	
3月	26	512	44	27	8	0	0	57	8	65	0	0	656	5	251	1	26	0	0	0	6	277	650	58	34	496	1,515	2,171	
計	307	8,724	363	111	380	117	2	1,490	125	1,615	1	0	11,313	27	1,365	55	4,105	5	447	6	571	92	6,488	10,327	791	614	10,264	28,484	39,797

## ●常設展観覧者数累計 (平成2年度～平成15年度)

(単位：人)

年 度	開館 日数	有 料 観 覧 者												無 料 観 覧 者												観 覧 者 総 数		
		個 人			団体 (割引20%)			減免 (割引50%)						有 料 観 覧 者 計	学 校 教 育						そ の 他	無 料 観 覧 者 計						
		一般	高校・ 大学生	小・中 学生	一般	高校・ 大学生	小・中 学生	大 人			高校・ 大学生	小・中 学生	幼稚園・ 保育園 園数		小学校		中学校		高 校				計		休 業 期 間 土 日 祝			
								高齢者	障害者	計					校	人数	校	人数	校	人数			校	人数				
2	118	49,512	4,218	16,163	6,686	76	1,603	9,788	571	10,359	57	48	88,722			55	4,877	6	640	12	1,972	73	7,489		1,066	8,555	97,277	
3	301	55,578	4,749	20,287	6,876	271	1,421	9,319	709	10,028	19	53	99,282			202	26,165	44	6,960	21	2,443	267	35,568		2,267	37,835	137,117	
4	299	33,150	3,318	12,505	3,285	194	420	4,482	446	4,928	48	13	57,861			114	10,781	23	3,709	14	3,305	151	17,795		1,401	2,076	21,272	79,133
5	300	28,762	2,413	10,974	2,629	251	364	3,306	239	3,545	2	3	48,943	5	293	118	12,204	22	2,939	6	832	151	16,268		1,398	2,871	20,537	69,480
6	299	20,640	1,712	8,149	1,807	159	330	2,399	150	2,549	5	18	35,369	38	2,547	90	7,980	22	3,246	9	730	159	14,503		1,195	1,080	16,778	52,147
7	300	19,950	1,353	7,556	867	220	217	2,639	243	2,882	3	0	33,048	27	1,542	99	8,641	20	3,311	4	253	150	13,747		2,085	7,493	23,325	56,373
8	305	13,294	922	5,326	891	44	96	1,699	144	1,843	3	15	22,434	30	1,788	81	8,114	18	2,780	7	776	136	13,458		1,390	19,839	34,687	57,121
9	306	11,115	791	3,957	706	149	53	1,563	219	1,782	17	3	18,573	24	1,261	80	6,059	21	2,994	7	746	132	11,060		829	14,258	26,147	44,720
10	307	10,039	700	4,008	446	28	93	1,129	135	1,264	1	11	16,590	16	990	52	3,823	8	988	5	954	81	6,755		1,337	14,209	22,301	38,891
11	307	8,778	642	3,595	390	148	89	1,027	179	1,206	1	21	14,870	25	913	62	4,323	12	1,472	7	583	106	7,291		1,881	13,846	23,018	37,888
12	306	8,653	484	3,351	456	153	132	1,371	241	1,612	1	10	14,852	33	1,270	58	3,654	11	1,905	6	546	108	7,375		2,161	13,744	23,280	38,132
13	306	6,950	418	2,810	608	3	56	1,217	132	1,349	3	8	12,205	20	920	58	2,771	14	1,409	6	441	83	5,541		2,275	12,017	19,833	32,038
14	306	7,661	372	130	381	68	89	1,126	206	1,332	1	0	10,034	25	1,158	42	3,382	8	1,006	6	630	81	6,176		11,373	9,766	27,315	37,349
15	307	8,724	363	111	380	117	2	1,490	125	1,615	1	0	11,313	27	1,365	55	4,105	5	447	6	571	92	6,488		11,732	10,264	28,484	39,797
計	4,067	282,806	22,455	98,922	26,408	1,881	4,965	42,555	3,739	46,294	162	203	484,096	270	14,047	1,166	106,879	234	33,806	116	14,782	1,770	169,514		39,057	124,796	333,367	817,463

●平成15年度 博物館企画展観覧者数

(単位：人)

企画展名	開催期間	開催日数	有料観覧者										無料観覧者										観覧者総数							
			個人			団体(割引20%)			減免(割引50%)				有料観覧者計	学校教育					個人					無料観覧者計						
			一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	一般			高校生		小・中学生	幼稚園	小学校	中学校	高校	計	小学生	中学生	高校生			その他					
									高齢者	障害者	計																			
第1回企画展 歴史を決めた戦い	H.15.4.22 H.15.5.25	30	1,930	67	15	0	0	0	558	29	587	0	0	2,599	1	127	7	530	3	261	4	399	15	1,317	664	112	84	577	2,754	5,353
第2回企画展 アイヌ工芸品展	H.15.7.19 H.15.8.31	38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	36	0	0	1	39	0	0	2	75	2,193	233	317	7,621	10,429	10,429
第3回企画展 アンモナイトのすべて	H.15.10.17 H.15.11.24	34	2,892	106	35	32	0	0	524	25	549	0	0	3,614	5	346	25	1,483	1	17	1	168	32	2,014	2,114	143	98	1,112	5,481	9,095
合計		102	4,822	173	50	32	0	0	1,082	54	1,136	0	0	6,213	7	509	32	2,013	5	317	5	567	49	3,406	4,971	488	449	9,310	18,664	24,877

●企画展観覧者数累計 (平成3～15年度)

(単位：人)

年度	開催日数	有料観覧者										有料観覧者計	無料観覧者計	観覧者総数	
		個人			団体(割引20%)			減免(割引50%)							
		一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	一般			高校・大学生				小・中学生
平成3年度	120	14,333	1,078	3,796	404	30	661	2,541	84	2,625	20	2	22,949	1,288	24,237
平成4年度	86	12,269	915	6,856	476	55	147	1,176	50	1,226	0	5	21,949	1,143	23,092
平成5年度	104	10,258	1,002	4,475	275	27	396	980	28	1,008	2	0	17,443	1,732	19,175
平成6年度	112	7,593	708	1,060	222	0	277	1,264	36	1,300	0	6	11,166	8,592	19,758
平成7年度	94	8,432	769	4,374	83	10	744	862	55	917	0	3	15,332	17,213	32,545
平成8年度	114	7,044	869	2,681	28	37	1,330	1,054	64	1,118	33	1	13,141	2,960	16,101
平成9年度	95	6,022	472	1,525	47	13	820	1,262	53	1,315	4	1	10,219	1,981	12,200
平成10年度	107	6,364	266	3,766	53	3	1,367	660	71	731	0	15	12,565	3,476	16,041
平成11年度	83	5,802	469	1,056	114	78	904	1,449	86	1,535	0	7	9,965	2,773	12,738
平成12年度	145	5,225	336	2,186	30	0	79	914	58	972	0	6	8,834	24,581	33,415
平成13年度	90	6,302	444	734	146	37	197	2,137	85	2,222	2	5	10,089	2,070	12,159
平成14年度	93	4,381	135	36	34	0	0	857	36	893	0	0	5,479	7,756	13,235
平成15年度	102	4,822	173	50	32	0	0	1,082	54	1,136	0	0	6,213	18,664	24,877
合計	1,345	98,847	7,636	32,595	1,944	290	6,922	16,238	760	16,998	61	51	165,344	94,229	259,573

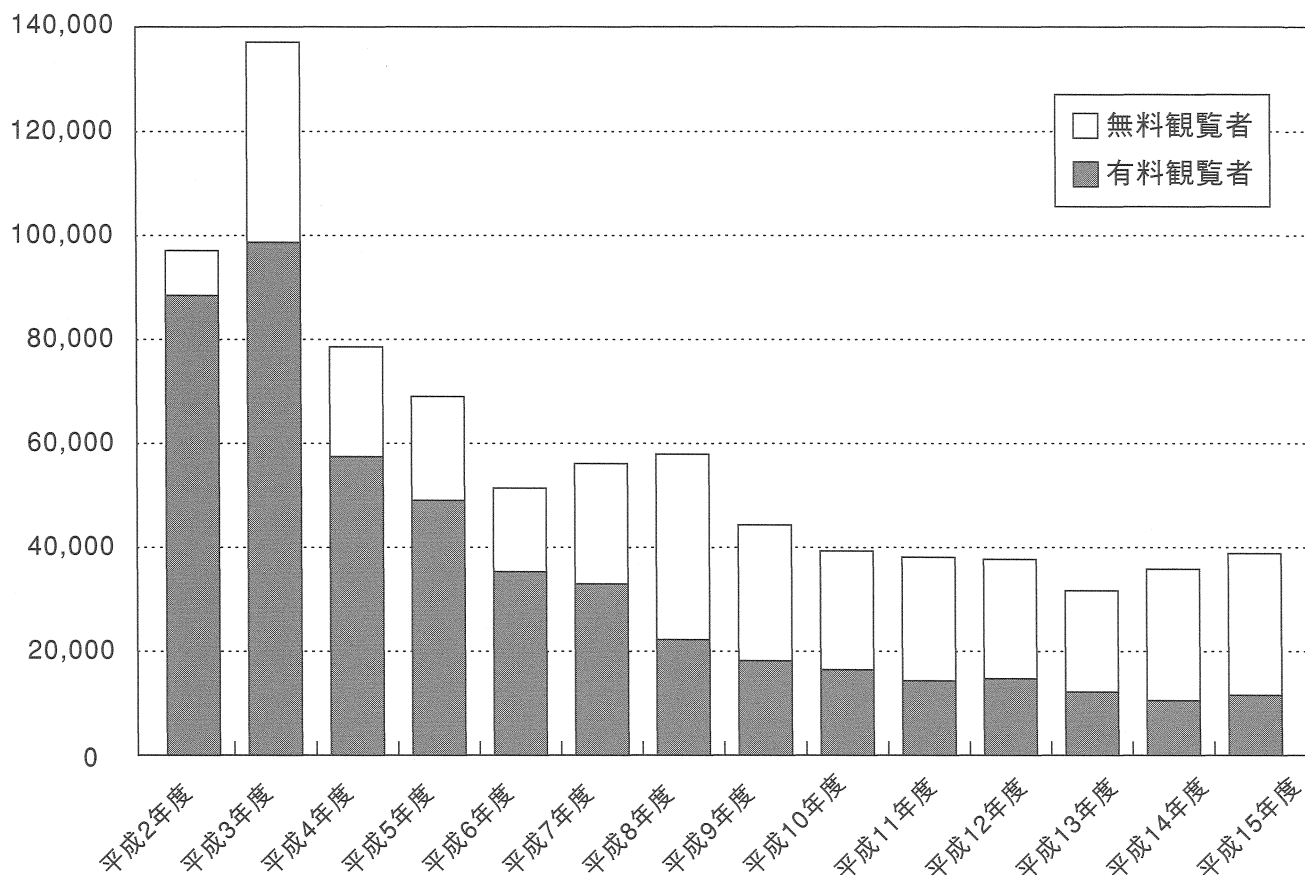
●特別陳列観覧者数累計 (平成4～15年度)

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
第1回館蔵品展	平5.2.16～3.21	29	6,712
掘ったでよ阿波	平6.2.1～2.27	23	4,090
掘ったでよ阿波	平7.1.13～2.5	21	3,165
第2回収蔵品展	平8.2.16～3.17	27	5,358
第3回館蔵品展 「自然コレクション」	平11.7.17～8.29	38	22,372
2000年度同和問題啓発展	平12.8.26～9.8	12	1,561
写生大会作品展	平12.12.5～12.24	18	1,850
勝瑞時代 -細川・三好氏と阿波-	平13.10.25～11.25	32	5,605
2001年度同和問題啓発展	平13.10.25～11.25	8	1,290
〃 第2回	平13.12.4～12.9	6	847
丹波マンガン鉱山の記録 -在日コリアンの労働史-	平14.6.25～7.7	12	1,195
2002年度同和問題啓発展	平14.7.27～8.4	8	1,066
2002年同和問題啓発展第2回	平14.12.3～12.8	6	669
楠コレクションの 美術・歴史資料	平15.1.21～3.2	36	4,655
知里幸恵誕生100年記念巡回展 自由の天地を求めて-知里幸恵 『アイヌ神謡曲集』への道-	平15.7.19～7.27	8	1,317
2003年度人権問題啓発展	平15.8.2～8.10	8	1,414
〃 第2回	平15.12.2～12.7	6	911
日本刀の美 -赤羽刀とその他の館蔵品-	平16.1.27～3.7	35	8,698
合計		333	72,775

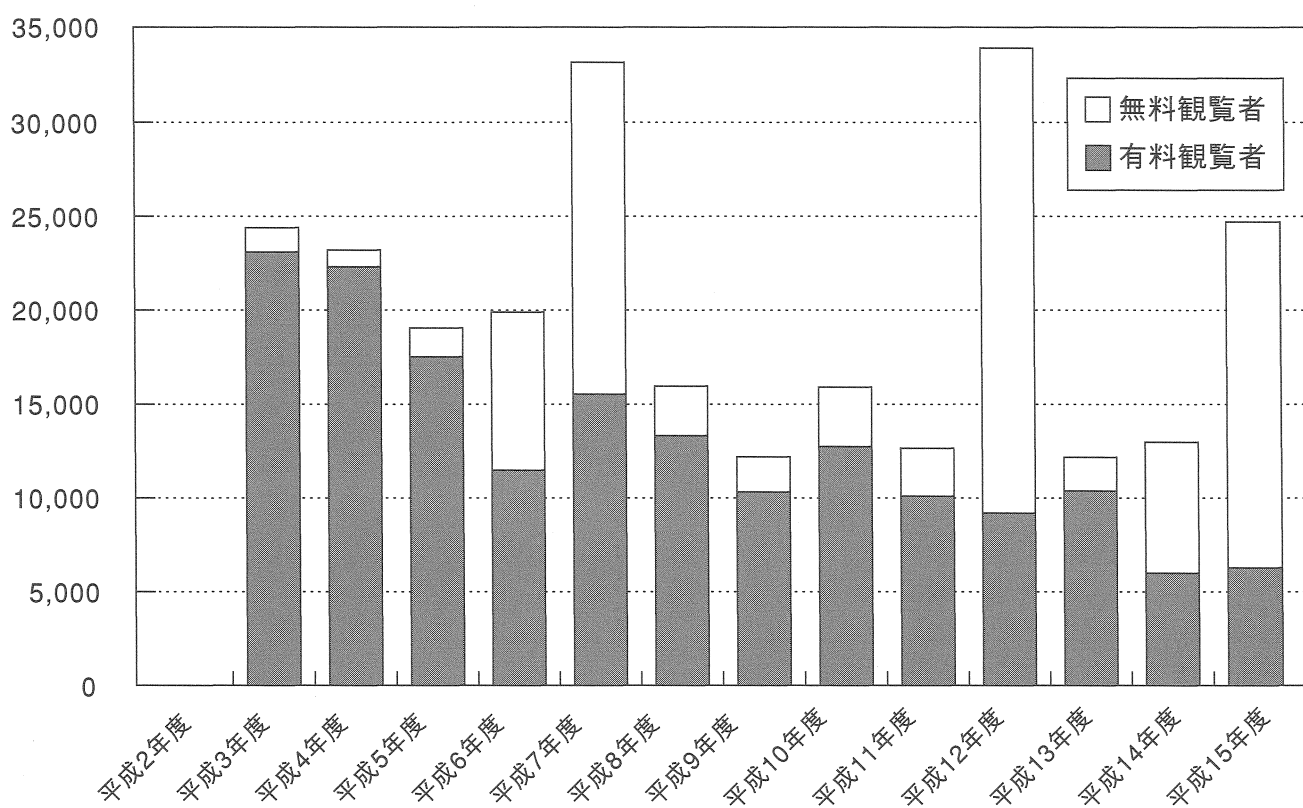
●移動展観覧者数 (平成14年度)

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
2002年度移動展-昆虫 の世界(海南町立博物館)	平14.10.26～11.24	26	1,328

●常設展観覧者数（平成2～15年度）



●企画展観覧者数（平成2～15年度）



## Ⅶ 施設の概要

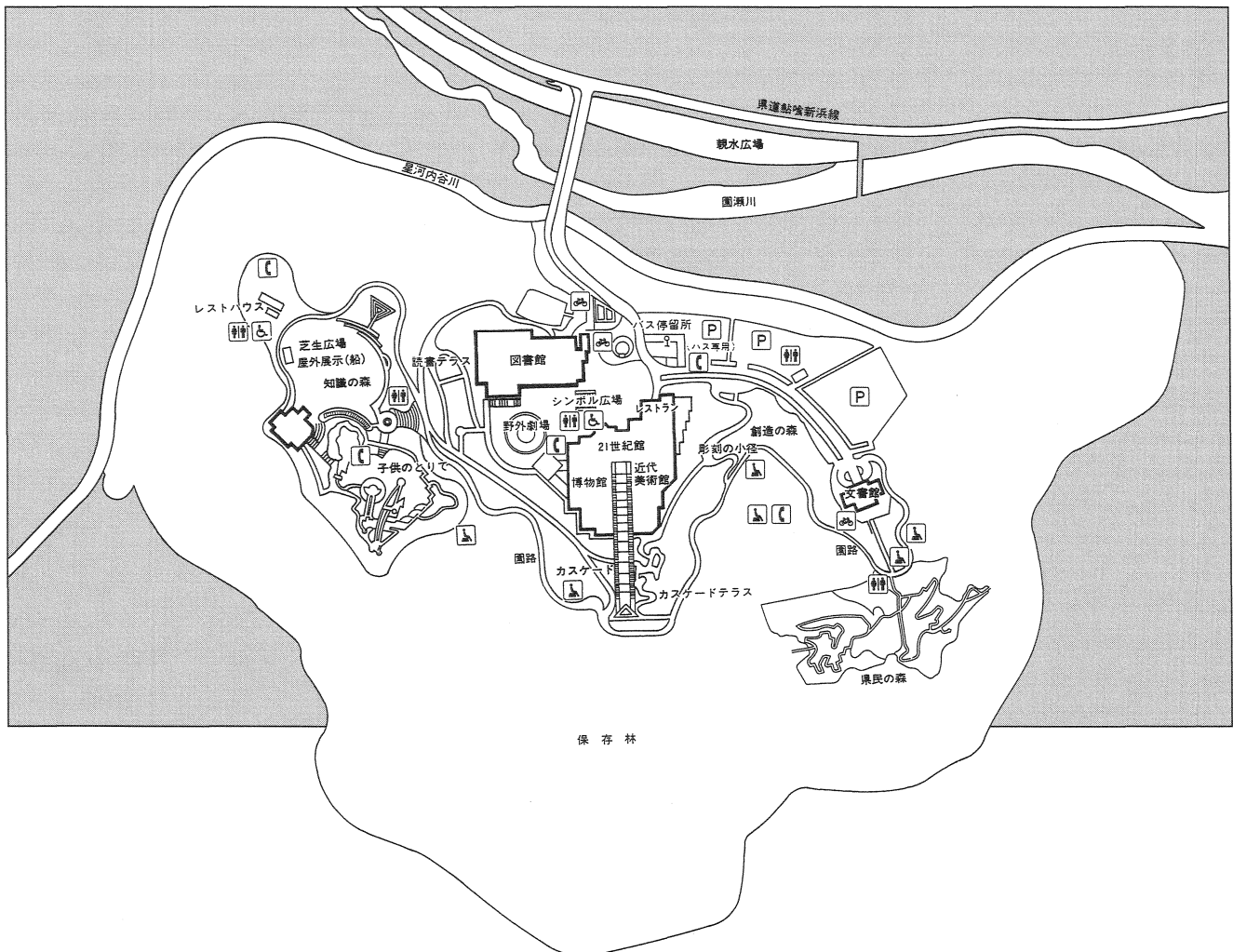
### 1. 沿革

昭和34年12月	旧博物館（徳島県博物館）設置及び開館 （旧博物館に関する沿革は「徳島県博物館30年史」参照）
昭和55年1月	文化の森構想発表
4月	置県百年記念文化施設等整備基金設置
昭和56年2月	文化の森懇話会報告書提出
昭和57年3月	文化の森建設地を徳島市八万町向寺山及び寺山に決定
12月	博物館基本構想検討委員会を設置
昭和58年3月	文化の森総合公園を都市計画決定
昭和59年1月	博物館基本構想検討委員会が「徳島県立博物館基本構想報告書」を知事に提出
4月	美術品等取得基金設置
5月	博物館資料収集展示委員会を設置
昭和60年8月	文化の森総合公園起工式挙行、基盤整備工事に着手 徳島県とアルゼンチン共和国ラプラタ大学との相互贈与に関する合意書締結
昭和61年3月	文化の森の各文化施設基本設計（文書館を除く）及び博物館展示基本設計完了
昭和62年3月	各文化施設実施設計及び博物館展示実施設計完了
8月	各文化施設（文書館を除く）建設工事着手
昭和63年7月	博物館展示工事着手
平成元年4月	旧博物館展示室閉室
12月	博物館・近代美術館・21世紀館棟本体工事竣工
平成2年3月	旧博物館閉鎖
4月	文化の森総合公園文化施設条例施行により、博物館（徳島県立博物館）及び博物館協議会設置
10月	博物館展示工事竣工
11月	文化の森総合公園開園、博物館開館
平成3年2月	博物館資料収集委員会設置
平成4年3月	日本育英会の第一種学資金の返還を免除される職を置く研究所等に指定される
平成8年4月	博物館管理規則の一部改正により、全祝日・休日の開館を実施
平成15年7月	科学研究費補助金の申請を行うことができる学術研究機関に指定される

### 2. 施設の概要

- 所在地 徳島市八万町向寺山
- 敷地面積 40.6ha（文化の森総合公園全体）
- 建築面積 8,363m<sup>2</sup>（3館棟）
- 延床面積 22,382m<sup>2</sup>（3館合計－積層部分を含めると23,814m<sup>2</sup>）  
8,133m<sup>2</sup>（博物館占用スペース）

- 構造規模 鉄筋鉄骨コンクリート造 地上4階・塔屋1階・地下1階
- 設計 (株)佐藤武夫設計事務所・(株)日建設計・(株)環境建築研究所 共同企業体
- 施行
  - 建築 ————— 大成建設・フジタ工業・不動建設・熊谷組・間組 共同企業体
  - 電気 ————— 四国電気工業・近畿電気工事 共同企業体
  - 空調 ————— 東洋熱工業・三機工業・ナミレイ 共同企業体
  - 管 ————— 朝日工業社・大成設備 共同企業体
  - エレベータ ————— (株)東芝
  - 家具 ————— 富士ファニチア(株)
  - 移動展示ケース ——— (株)三井
  - 展示 ————— (株)丹青社



### 3. 博物館各室面積

1 階	
室名	面積 <sup>m<sup>2</sup></sup>
企画展示室	325
同上準備室	46
地学収蔵庫	186
考古収蔵庫	361
一時保管庫	89
倉庫	135
冷凍室	19
石工室	41
保存処理室 1	70
その他共用部分※	771
小計	2,043

2 階	
室名	面積 <sup>m<sup>2</sup></sup>
総合展示室	1,252
ラプラタ記念ホール	210
部門展示室(人文)	251
部門展示室(自然)	250
休憩室	21
休憩コーナー	39
展示ロビー	407
エレベーターホール	20
廊下	65
その他共用部分※	442
小計	2,957

4 階	
室名	面積 <sup>m<sup>2</sup></sup>
エレベーターホール	45
特別収蔵庫 1	37
特別収蔵庫 2	37
馴化室	35
歴史民俗収蔵庫	357
生物収蔵庫	380
その他共用部分※	151
小計	1,042

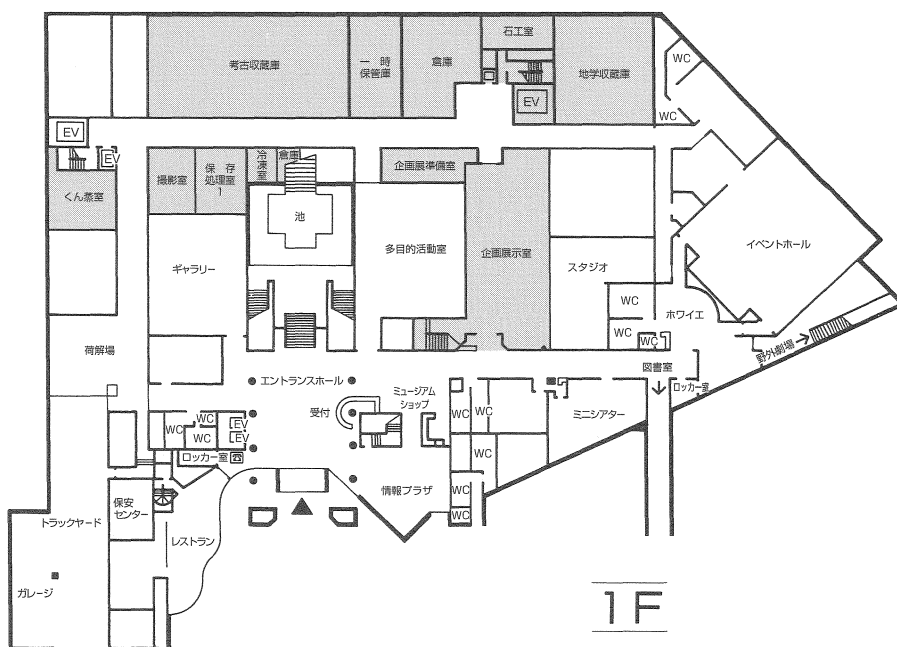
3 階	
室名	面積 <sup>m<sup>2</sup></sup>
暗室	23
倉庫	21
倉庫	15
エレベーターホール	37
湯沸室	12
講座室	123
実習室	146
実習・講座準備室	34
レファレンスルーム	81
館長室	53
応接室	21
事務室	133
研究室(自然史)	106
生物標本作成室	28
飼育室	21
研究室(人文)	80
地学考古民俗作業室	64
分析室 1	64
分析室 2	48
X線撮影室	48
保存処理室 2	100
薬品庫	22
資料鑑定室	22
生物液浸収蔵庫	100
電子顕微鏡室	30
書庫	97
資料室	20
書類保管庫	35
その他共用部分※	468
小計	2,052

屋 1 階	
室名	面積 <sup>m<sup>2</sup></sup>
その他共用部分※	39
小計	39

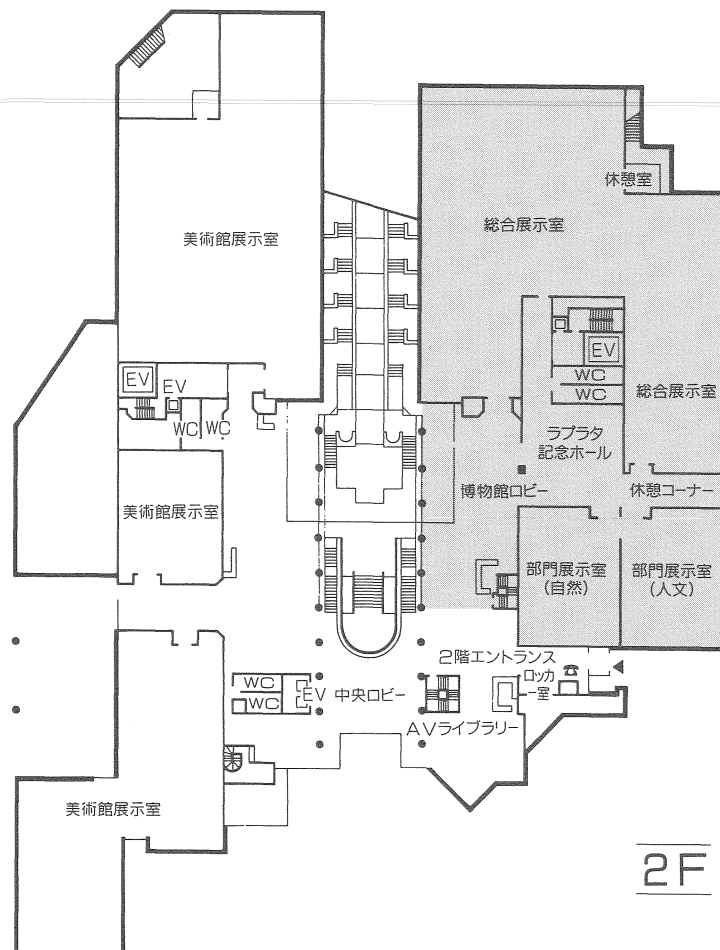
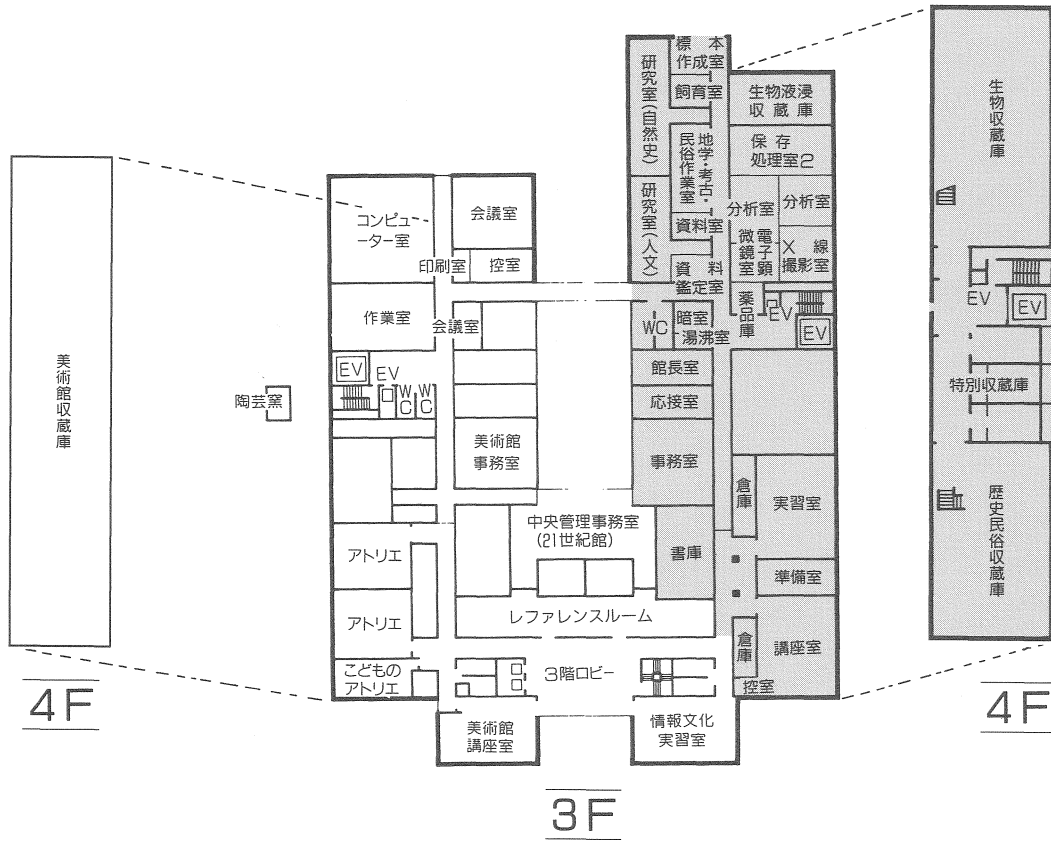
合 計	
8,133 <sup>m<sup>2</sup></sup>	

※は荷解場、廊下、便所、空調機械室など共用部分の、美術館および21世紀館との案分面積。

博物館占用スペース







## VIII 例 規

### ●徳島県文化の森総合公園文化施設条例〔抜粋〕

制 定 平成2年3月26日 徳島県条例第11号

最近改正 平成9年3月28日 徳島県条例第34号

(設置)

第1条 個性豊かな県民文化を振興し、魅力のある地域づくりに寄与するため、県民の文化活動の拠点として、徳島県文化の森総合公園文化施設（以下「文化施設」という。）を徳島市八万町に設置する。

(名称及び業務)

第2条 文化施設の名称及び業務は、次のとおりとする。

名 称	業 務
徳島県立博物館 (以下「博物館」という。)	(1) 考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。 (2) 博物館資料に関する調査研究を行うこと。 (3) 博物館資料に関する観察会、講座等の教育普及事業を行うこと。 (4) その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

(徳島県立図書館、徳島県立近代美術館、徳島県立文書館、徳島県立21世紀館の業務は省略)

(利用の許可)

第3条 (省略)

(観覧料等)

第4条 博物館が展示する博物館資料又は美術館が展示する美術館資料を観覧する者に対しては、別表第1に掲げる額の観覧料を徴収する。

2 (省略)

3 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料又は使用料の全額又は一部を免除することができる。

4 観覧料及び使用料の徴収の時期及び方法その他観覧料及び使用料に関し必要な事項は、規則で定める。

(損害の賠償)

第5条 文化施設を利用する者は、文化施設の施設、資料等をき損し又は亡失したときは、これによって生じた損害を賠償しなければならない。ただし、知事は、当該き損又は亡失がやむを得ない理由によるものであると認めるときは、その賠償責任の全部又は一部を免除することができる。

(職員)

第6条 図書館法（昭和25年法律第118号）及び博物館法（昭和26年法律第285号）に定めるもののほか、文化施設に、館長その他必要な職員を置く。

(協議会)

第7条 教育委員会の附属機関として、次の表の上欄に掲げる協議会を置き、これらの協議会の所掌事務は、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

協議会の名称	所掌事務
徳島県立博物館協議会	博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べること。

(4館の各協議会の所掌事務は省略)

- 2 協議会は、委員10人以内で組織する。
- 3 (省略)
- 4 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 委員は、再任されることができる。
- 6 前各項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。  
(教育委員会規則への委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、文化施設の管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

別表第1 (第4条関係)

区 分	単 位	金 額			
		常 設 展		企 画 展	
		個 人	団体 (20人以上をいう。以下同じ。)	個 人	団 体
小学校の児童及び中学校の生徒	1人1回	50円	40円	知事はその都度定める額	
高等学校の生徒並びに高等専門学校及び大学の学生並びにこれらに準ずる者	1人1回	100円	80円		
その他の者(学齢に達しない者を除く。)	1人1回	200円	160円		

## ●徳島県立博物館管理規則

制定 平成2年3月31日 徳島県教育委員会規則第9号

改正 平成8年3月29日 徳島県教育委員会規則第7号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島県立博物館(以下「博物館」という。)の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(休館日)

第2条 博物館の休館日は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 月曜日 ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときは、その後においてその日に最も近い休日でない日
- (2) 12月28日から翌年の1月4日までの日

2 徳島県立博物館長(以下「館長」という。)は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず臨時に休館し、又は同項に規定する休館日に開館することができる。

(供用時間)

第3条 博物館の供用時間は、午前9時30分から午後5時までとする。

2 館長は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、同項に規定する供用時間を変更することができる。

(遵守事項)

第4条 博物館を利用する者は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例(平成2年徳島県条例第11号)及びこの規

則並びに館長が別に定める利用者心得その他の規律を守らなければならない。

(入館の禁止等)

第5条 館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、入館を禁止し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 泥酔者及び伝染性の疾病にかかっていると認められる者
- (2) 前条の規定に違反し、又はそのおそれがある者

(資料の特別利用)

第6条 学術その他の目的のために博物館資料の撮影、模写等をしようとする者は、あらかじめ、館長の承認を受けなければならない。

(補則)

第7条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理に関し必要な事項は、館長が定める。

## ●徳島県立博物館協議会規則

制定 平成2年3月31日 徳島県教育委員会規則第4号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号）第7条第6項の規定に基づき、徳島県立博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第2条 協議会に、会長及び副会長1人を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選によって定める。
- 3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第3条 協議会の会議は、会長が招集する。

- 2 協議会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ、開くことができない。
- 3 協議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(雑則)

第4条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

## ●徳島県教育委員会行政組織規則 [抜粋]

制定 昭和45年3月31日 徳島県教育委員会規則第4号  
最近改正 平成16年3月31日 徳島県教育委員会規則第3号

第1章 総 則 (省略)

第2章 事務局 (省略)

第3章 教育機関 [博物館に該当する条項のみの抜粋]

第3節 徳島県立博物館

(名称及び位置)

第24条 徳島県文化の森総合公園文化施設条例により設置された徳島県立博物館（以下「博物館」という。）の名称及び位置は、次の表に掲げるとおりとする。

名 称	位 置
徳 島 県 立 博 物 館	徳島市八万町向寺山

(内部組織等)

第25条 博物館に総務課、自然課及び人文課を置き、総務課に庶務係及び普及係を置く。

2 前項の課及び係の分担事務は、館長が定める。

(業務)

第26条 博物館の業務は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料(以下「博物館資料」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 博物館資料に関する調査研究を行うこと。
- (3) 博物館資料に関する観察会、講座等の教育普及事業を行うこと。
- (4) その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

第6節 職及び職務 [博物館に該当する条項のみの抜粋]

(所長等の職務)

第32条 教育センター、情報処理教育センター、総合教育センター、少年自然の家及び埋文総合センターの所長、文書館、21世紀館及び中央武道館の館長並びに県民運動場の場長は、上司の命を受け当該教育機関の事務をつかさどり、所属職員を指揮監督する。

(次長等)

第33条 上司の命を受け、教育機関の長を補佐させるため、次の表の上欄に掲げる職を同表の相当下欄に掲げる教育機関に置く。

職	教 育 機 関
副 館 長	図書館、博物館、美術館、文書館、21世紀館

(教育センターその他の次長は省略)

2 教育機関の長に事故があるとき、又は教育機関の長が欠けたときは、当該機関に属する次長又は副館長（2人以上が置かれているときは、当該教育機関の長が指定する次長又は副館長）が、その職務を代行する。

(主幹等)

第34条 前条に規定する職のほか、教育機関に、次の表の上欄に掲げる職のうち必要な職を置き、その職務は、それぞれ同表の相当下欄に掲げるとおりとする。

職	職 務
主 幹	上司の命を受け、当該教育機関の事務に関し特に命ぜられた事項を処理する。
課 長	上司の命を受け、課の事務を処理する。
主 査	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする事務又は技術に従事する。
専 門 学 芸 員	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする博物館又は美術館の専門的事務に従事する。
係 長	上司の命を受け、当該教育機関の事務に関し命ぜられた事項又は係の事務を処理する。
事 務 主 任	上司の命を受け、相当の知識又は経験を必要とする事務に従事する。
主 任 学 芸 員	上司の命を受け、相当の知識又は経験を必要とする博物館又は美術館の専門的事務に従事する。
主 事	上司の命を受け、事務に従事する。
学 芸 員	上司の命を受け、博物館又は美術館の専門的事務に従事する。

(司書、技師その他の博物館に置いていない職は省略)

## 第4章 附属機関

第37条 附属機関の名称、庶務を担当する課又は教育機関は、次の表に掲げるとおりとする。

名 称	庶務を担当する課又は教育機関
徳島県立博物館協議会	博物館

(事務局の各審議会、他館の各協議会等は省略)

## ●徳島県立博物館観覧料減免要綱

制 定 平成2年11月3日

最近改正 平成14年4月1日

(趣旨)

第1条 この要綱は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例(平成2年徳島県条例第11号。以下「条例」という。)

第4条第3項の規定に基づき、徳島県立博物館の観覧料の減免について必要な事項を定めるものとする。

(観覧料の減免)

第2条 観覧料を減免することができるとき及びその減免の割合は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及びこれらに準ずる者並びにこれらの引率者が、教育課程に基づく学習活動として観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の全額
- (2) 身体障害者手帳の交付を受けている者及び第一種身体障害者(昭和57年1月6日付け社更第4号厚生省社会局長・児童家庭局長通知に定めるところによる。)の介護者(1名に限る。)、療育手帳の交付を受けている者及びその介護者(1名に限る。)並びに精神障害者保険福祉手帳の交付を受けている者及びその介護者(1名に限る。)が観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の額に百分の五十を乗じて得た額
- (3) 年齢満65歳以上の者が観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の額に百分の五十を乗じて得た額
- (4) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する祝日及び休日(1月1日を除く。以下「祝日」という。)に観覧するとき。常設展観覧料の全額
- (5) 祝日に、小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及びこれらに準ずる者が観覧するとき。企画展観覧料の全額
- (6) 土曜日(祝日を除く。)に、小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及びこれらに準ずる者が観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の全額
- (7) 日曜日(祝日を除く。)に、小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及びこれらに準ずる者が観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の全額
- (8) 各学校の学則等に規定する学年始休業日、夏季休業日、冬季休業日及び学年末休業日(土曜日、日曜日及び祝日を除く。)に、小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及びこれらに準ずる者が観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の全額
- (9) その他徳島県立博物館長(以下「館長」という。)が特に必要と認めるとき。館長が必要と認める額  
(観覧料の免除申請等)

第3条 前条第1号により観覧料の免除を受けようとする者は、あらかじめ徳島県立博物館観覧料免除申請書(様式第1号)を館長に提出し、承認を受けなければならない。

2 館長は、前項の申請を適当と認めるときは、観覧料の免除を承認するものとする。

3 前条第2号又は第3号に該当する者は、身体障害者手帳、療育手帳並びに精神障害者保険福祉手帳又は年齢を証明する資料を提示し、承認を受けるものとする。

様式第1号(省略)

## ●徳島県立博物館資料特別利用要綱

制 定 平成3年12月1日

(趣旨)

第1条 この要綱は、徳島県立博物館管理規則（平成2年徳島県教育委員会規則第9号）第6条の規定に基づき、徳島県立博物館が所蔵する博物館資料（以下「資料」という。）の特別利用について必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 資料の特別利用とは、学術その他の研究及び展示、又は出版物掲載等のため、資料を特別に閲覧、模写、複写、複製、撮影しようとする場合、あるいは資料の貸出を受けようとする場合をいう。

(手続)

第3条 資料の特別利用をしようとする者は、あらかじめ徳島県立博物館長（以下「館長」という。）に資料特別利用申請書（様式第1号）を提出し、資料特別利用許可書（様式第2号）の交付を受けなければならない。

2 資料の特別利用のうち、資料の館外貸出を受けようとする者は、貸出を受けようとする日の30日前までに、特別利用申請書を提出するものとする。

3 館長は、資料の館外貸出をする際、借受者から資料借用書（様式第3号）を提出させるものとする。

(許可基準等)

第4条 資料の特別利用ができる場合は、学術その他の研究及び教育又は文化に関する事業の用に供することを目的とするときに限るものとし、次の各号のいずれかに該当するときは許可しないものとする。

- (1) 特別利用によって、資料の保存に悪影響を及ぼす恐れがあるとき。
- (2) 特別利用によって、博物館の業務に支障をきたす恐れがあるとき。
- (3) 寄託資料の特別利用をしようとする場合で、寄託者の同意を得ていないとき。
- (4) その他、館長が不相当と認めるとき。

2 資料の館外貸出を受けることができる者は、次のとおりとする。ただし、貸出期間は原則として45日以内とする。

- (1) 国立の博物館、博物館法に定める博物館及び博物館に相当する施設
- (2) 社会教育法に定める公民館
- (3) 国立の図書館及び図書館法に定める図書館
- (4) 学校教育法に定める学校
- (5) その他、館長が適当と認める者

(条件)

第5条 資料の特別利用を許可された者は、特別利用に際し次の各号を遵守しなければならない。

- (1) 資料特別利用申請書に記載した目的以外に資料を利用しないこと。
- (2) 係員の指示に従って資料を取り扱うこと。
- (3) 資料の借受及び返納に当たっては、係員立ち会いのもとで、資料の確認、点検を行うこと。
- (4) 特別利用に伴って必要となる経費は、特別利用する者が負担すること。

(損害賠償)

第6条 資料の特別利用を受けた者が、資料を損傷又は亡失したときは、速やかに館長に届け出てその指示するところに従い、これを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

様式第1号～第3号（省略）

## ●徳島県立博物館資料寄託取扱要綱

制 定 平成3年12月1日

(趣旨)

第1条 この要綱は、徳島県立博物館管理規則（平成2年徳島県教育委員会規則第9号）第7条の規定に基づき、博物館資料（以下「資料」という。）の寄託に関する取扱について必要な事項を定めるものとする。

(手続)

第2条 徳島県立博物館に資料を寄託しようとする者（以下「寄託者」という。）は、あらかじめ徳島県立博物館長（以下「館長」という。）に資料寄託申請書（様式第1号）を提出し、資料寄託許可証（様式第2号）の交付を受けなければならない。

2 館長は、資料の寄託を受けたときは、寄託者に資料受託書（様式第3号）を交付するものとする。

3 寄託者に寄託資料を返還するときは、資料受託書と引き替えに行うものとする。

(許可基準)

第3条 館長は、資料の寄託の申請があったときは、次の各号のいずれかに該当する資料について受け入れるものとする。

- (1) 国指定文化財及び県・市町村指定文化財に指定されている資料、若しくはそれに準ずる資料
- (2) 博物館資料として展示等に活用できる資料
- (3) 博物館資料として保存すべき価値が高く、かつ現状のままでは資料の保存が危惧される資料
- (4) その他、館長が特に必要と認める資料

(寄託期間等)

第4条 資料の寄託期間は、5年とする。

2 寄託者が、寄託期間満了後において引き続き資料を寄託しようとする場合は、改めて第2条による手続を行わなければならない。

3 寄託者が、寄託期間満了以前に寄託資料の返還を求めるときは、返還を希望する日の30日前までに館長に申し出なければならない。

4 寄託者は、寄託期間内に寄託資料の所有権に変更があったときは、速やかに館長に申し出なければならない。

5 館長は、前項の申し出を受けたときは、新たに所有権を有することになった者と協議し、引き続き資料の寄託を希望する場合は、改めて第2条による手続を行うものとする。

(寄託資料の特別利用)

第5条 徳島県立博物館又は第三者が、徳島県立博物館資料特別利用要綱に基づく寄託資料の特別利用をしようとするときは、あらかじめ寄託者の承諾を得なければならない。

2 第三者が寄託資料を特別利用しようとするときは、寄託者の承諾を得た後、資料特別利用要綱に基づく手続を行い、館長の許可を得るものとする。

(経費等)

第6条 寄託資料の運搬等に要する費用については、寄託者が負担するものとする。

2 寄託資料の保管料については徴収しない。

3 寄託資料に補修等の必要が生じたときは、館長と寄託者と協議して行うものとする。

(管理)

第7条 寄託資料の管理は、徳島県立博物館が所蔵する資料に準じて行うものとする。

様式第1号～第3号（省略）





徳島県立博物館年報 第13号 (平成15年度)

---

平成16年(2004)6月30日 発行

編集・発行：徳島県立博物館

〒770-8070 徳島市八万町向寺山

(文化の森総合公園内)

TEL (088) 668-3636 FAX (088) 668-7197

Eメール [museum@staff.comet.go.jp](mailto:museum@staff.comet.go.jp)

ホームページ <http://www.museum.comet.go.jp/>

印 刷：(株)教育出版センター

---